

特記を除き フープ D13-@100（フープは溶接閉鎖型とする）、 仕口内フープ D13-@150、 補助フープ D13-@300、 鉄筋材質 D13 SD295、 D25 SD345

柱リスト（1） 1/40 鉄骨材質 SN490B、 SHは外法一定形鋼、BHは組み立て形鋼を示す、 へ は寄せ筋を示す、 BH材への変更は監督職員の承諾を得ること

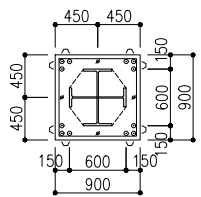
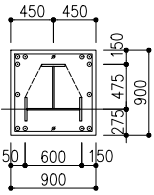
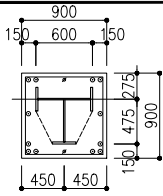
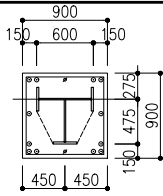
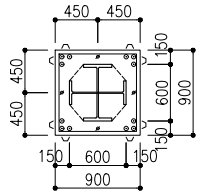
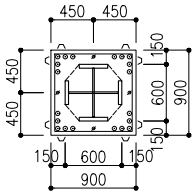
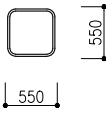
符 号	C1	C2	C2A	C2B	C3	C3A	SC1
3 階							
主 筋	12-D25	12-D25	12-D25	20-D25	12-D25	20-D25	-
フープ	-	-	-	-	-	-	-
鉄 骨	X 方向 SH-600x250x16x28 Y 方向 BT-475x250x16x28	X 方向 SH-600x250x16x28 Y 方向 BT-475x250x16x28	X 方向 SH-600x250x16x28 Y 方向 BT-475x250x16x28	X 方向 SH-600x250x16x28 Y 方向 BT-475x250x16x28	X 方向 BH-600x200x12x25 Y 方向 SH-600x300x16x32	X 方向 SH-600x250x16x32 Y 方向 SH-600x300x16x32	□-550x550x22
備 考							鉄骨材料：BCR295
2 階							
主 筋	12-D25	12-D25	12-D25	12-D25	12-D25	12-D25	-
フープ	-	-	-	-	-	-	-
鉄 骨	X 方向 SH-600x250x16x28 Y 方向 BT-475x250x16x28	X 方向 SH-600x250x16x28 Y 方向 BT-475x250x16x28	X 方向 SH-600x250x16x28 Y 方向 BT-475x250x16x28	X 方向 SH-600x250x16x28 Y 方向 BT-475x250x16x28	X 方向 BH-600x200x12x25 Y 方向 SH-600x300x16x32	X 方向 SH-600x250x16x32 Y 方向 SH-600x300x16x32	□-550x550x25
備 考							鉄骨材料：BCR295
1 階柱頭							
主 筋	20-D25	20-D25	20-D25	12-D25	12-D25	12-D25	-
フープ	-	-	-	-	-	-	-
鉄 骨	X 方向 SH-600x250x16x32 Y 方向 BT-475x250x16x32	X 方向 SH-600x250x16x32 Y 方向 BT-475x250x16x32	X 方向 SH-600x250x16x32 Y 方向 BT-475x250x16x32	X 方向 SH-600x250x16x32 Y 方向 BT-475x250x16x32	X 方向 BH-600x200x12x25 Y 方向 SH-600x300x16x32	X 方向 SH-600x250x16x32 Y 方向 SH-600x300x16x32	□-550x550x32
備 考							鉄骨材料：BCP325
1 階柱脚							
主 筋	20-D25	20-D25	20-D25	12-D25	12-D25	12-D25	-
フープ	-	-	-	-	-	-	-
鉄 骨	X 方向 SH-600x250x16x32 Y 方向 BT-475x300x16x32	X 方向 SH-600x250x16x32 Y 方向 BT-475x300x16x32	X 方向 BH-600x250x28x40 Y 方向 BT-475x350x16x40	X 方向 SH-600x250x16x32 Y 方向 BT-475x250x16x32	X 方向 BH-600x200x12x25 Y 方向 BH-600x350x16x40	X 方向 BH-600x200x12x25 Y 方向 BH-600x350x16x40	□-550x550x32
備 考							鉄骨材料：BCP325

SRC柱補強筋要領		柱主筋の二段配筋 1/-	
• 補強筋の梁断面の打ち込み長さは30mmとする。 • 補強筋の継手は重ね継手とし、継手長さ150mmとする。		• 二段配筋のあきは、鉄筋径の1.5倍とする。 • 位置確保の鉄筋は、帯筋と同径、鉄筋材質はSD295とする。 • 位置確保の鉄筋は、始点と終点は梁面とし、各階ごとに4箇所以上かつ@400以内とする。	
スタッドボルト打設位置要領図 1/40			
スタッドボルト 19φ (L=100) 十字柱の場合 トンボ柱の場合 場合			
柱打増要領 1/-			
	A の 範 囲		軸方向補強筋
	A < 70		補強なし
	70 ≤ A ≤ 300		D16 を@300で割付
	300 < A		D19 を@300で割付 (特記がある場合はそれによる。)
• 柱打増部分の帯筋は、柱の帯筋と同径・同間隔とし、材質はSD295とする。 • 軸方向補強筋はL2定着とする。			
柱頭部主筋定着要領 1/-			
• 柱頭部の柱主筋定着要領およびL2定着とし、四隅のみフック付きとする。 • 定着長を確保できない場合は下記a) またはb) の対応とする。			
a) プレート定着を用いない場合 • かんざし筋を用いる場合		b) プレート定着の場合（評定条件を満足すること。） • かんざし筋を用いる場合	

株式会社 佐藤総合計画					工事名称 南相馬市新庁舎建設建築主体工事	一級建築士事務所 登録番号 宮城県知事登録 第22210181号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号		種別 S - 049
柱リスト（1）					図面名称 柱リスト（1）	総括 一級建築士第315658号 飯柴耕一 監理 一級建築士第323340号 高橋英雄 一級建築士第374585号 古川侑慧		通し番号
04632-010					作成日 -	編尺 A1 S=1/ 40 A3 S=1/ 80	構造関係規定に適合することを確認した 一級建築士 第306020号 構造設計一級建築士 第5334号 檜垣 進司	設備関係規定に適合することを確認した 一級建築士 第359849号 設備設計一級建築士 第4808号 渡邊 森

特記を除き フープ D13-@100（フープは溶接閉鎖型とする）， 仕口内フープ D13-@150， 補助フープ D13-@300， 鉄筋材質 D13 SD295， D25 SD345

柱リスト（2） 1/40 鉄骨材質 SN490B， SHは外法一定形鋼、BHは組み立て形鋼を示す， へは寄せ筋を示す， BH材への変更は監督職員の承諾を得ること

符 号	C1	C2	C2A	C3	C3A	SC1
PH 階						
主 筋				12-D25		
フープ						
鉄骨				SH-600x200x12x25 SH-600x300x16x22		
備 考						
4 階						
主 筋	12-D25	12-D25	12-D25	12-D25	20-D25	-
フープ						-
鉄骨	SH-600x250x16x22 BT-475x250x16x22	SH-600x250x16x22 BT-475x250x16x22	SH-600x250x16x22 BT-475x250x16x22	SH-600x250x12x25 SH-600x300x16x32	BH-600x250x16x36 BH-600x300x16x40	□-550x550x22
備 考						鉄骨材料：BCR295



工事名称 南相馬市新庁舎建設建築主体工事			一級建築士事務所 登録番号 宮城県知事登録 第22210181号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号			種別 S - 050
図面名 柱リスト（2）			総括 一級建築士第315658号 飯柴耕一 担当 一級建築士第323340号 高橋英雄 一級建築士第374585号 古川侑慧			通し番号 -
設計番号 04632-010	作成日 -	縮尺 A1 S=1/ A3 S=1/ 40 80	構造関係図等に適合することを確認した 一級建築士 第306020号 構造設計一級建築士 第5334号 増垣 進司 設備関係図等に適合することを確認した 一級建築士 第359849号 設備設計一級建築士 第4808号 渡邊 森			

1 階 SRC 大梁端部ハンチ部分は水平ハンチ部配筋要領図参照とする

1/40

上 端 筋	2-D25	2-D25
下 端 筋	2-D25	2-D25
スーラップ		
腹 筋	2-D10	
鉄 骨	SH-500x300x12x28	SH-500x300x12x25
備 考	片持ちスラブが取り付く梁の 腹筋: 4-D22 (L2定着), ST-D13-@100	

※施工主筋位置は、必要かぶり厚を確保した上、上表の数値以内とする。

鉄骨材質 SN490B, SHは外法一定形鋼、BHは組み立て形鋼を示す, BH材への変更は監督職員の承諾を得ること

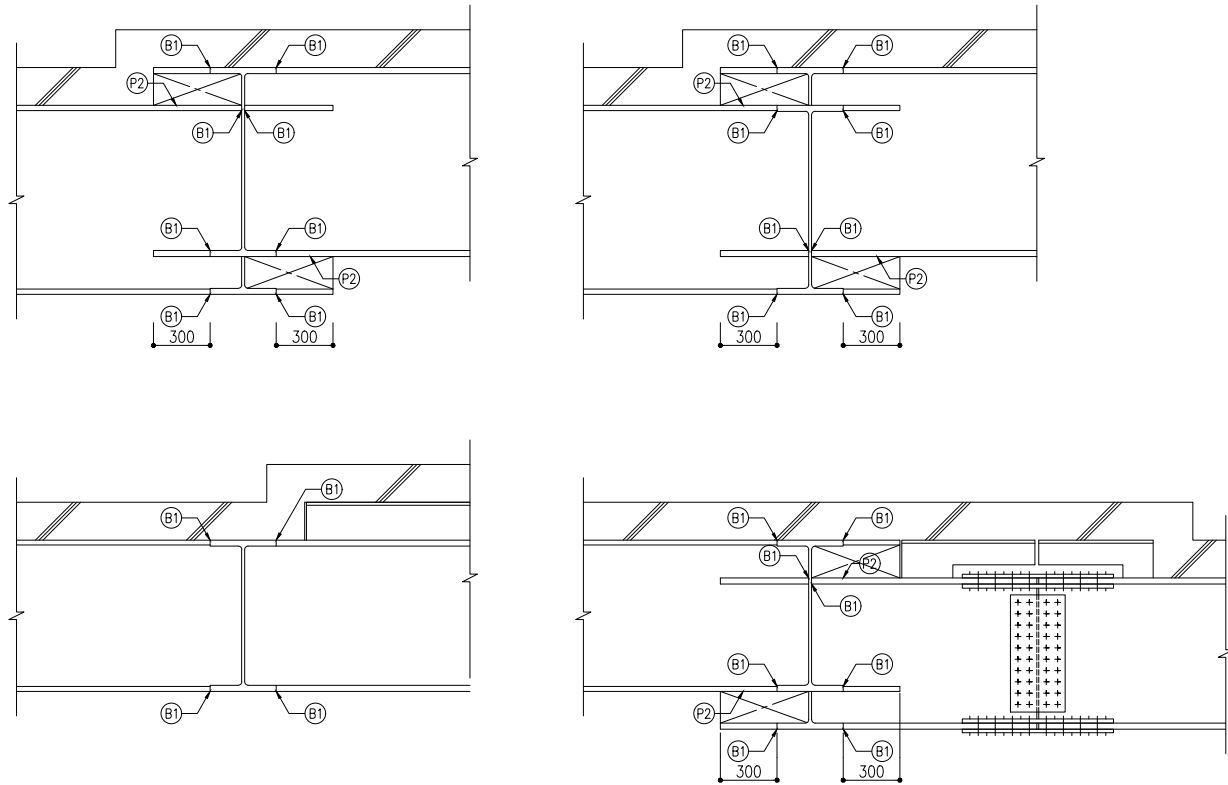
1 階SRC大梁端部ハンチ部分は水平ハンチ部配筋要領図参照とする

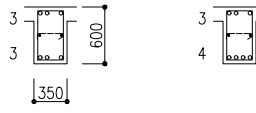
				 株式会社 佐藤総合計画	工事名称		南相馬市新庁舎建設建築主体工事		一級建築士事務所 登録番号 宮城県知事登録 第22210181号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号		種別	S - 053	
					図面名		SRC大梁 リスト (2)		総括 一級建築士第323340号 高橋英雄 一級建築士第374585号 古川佑憲		通し番号		
					設計番号	04632-010	作成日	-	細尺 A1 S=-/ 40 A3 S=-/ 80				-
					構造関係図に規定に適合することを確認した 一級建築士 第306020号 構造設計一級建築士 第5334号 増埤 道司		設備設計一級建築士 第359849号 設備設計一級建築士 第4008号 渡邊 森						

鉄骨大梁リスト 1/40 SHは外法一定形鋼、BHは組み立て形鋼を示す、BH材への変更は監督職員の承諾を得ること

[illegible]

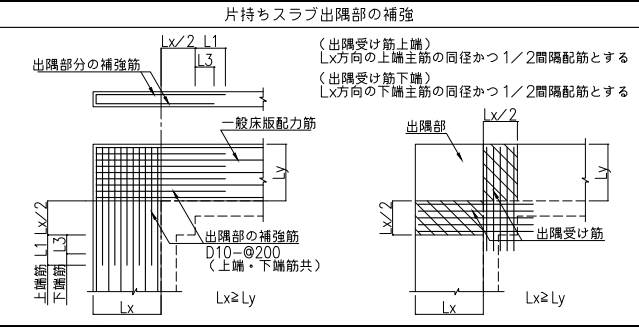
梁段差要領図

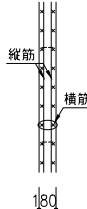
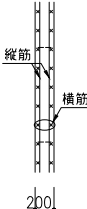
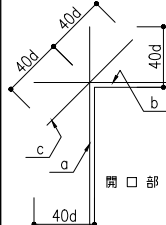
1/-[illegible]

符 号	B60	
位 置	端 部	中 央
断 面		
	上 端 筋	3-D22
	下 端 筋	3-D22
	スターラップ	D10-@200
	腹 筋	2-D10
巾止め筋		D10-@1,000
備 考		

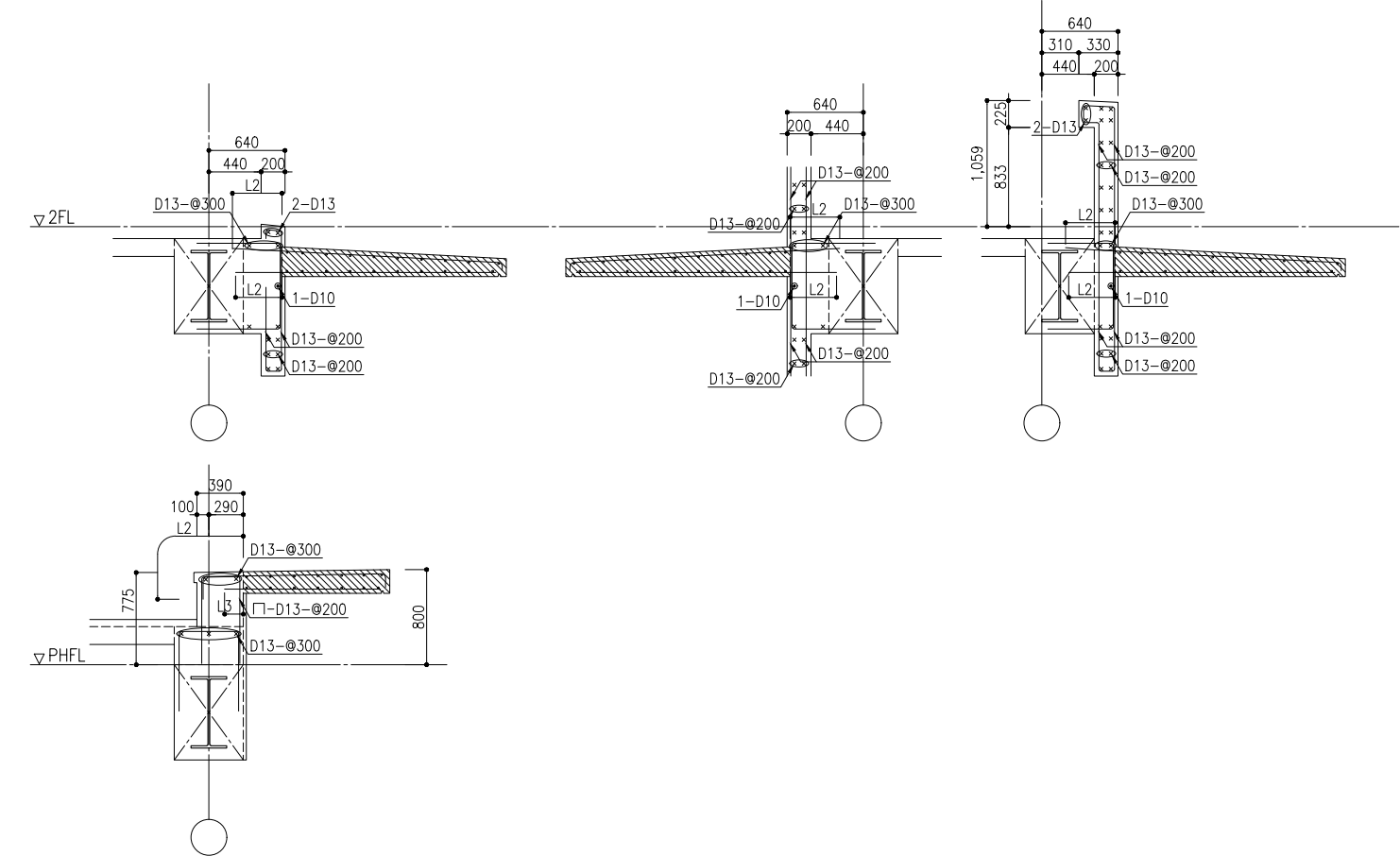
特記を除き スラブ通・開口部のデッキは開口設置後に周囲デッキは撤去とする。
スラブリスト 水槽上部のスラブ型枠は在来木型枠とする。

符 号	版 厚	位 置	短 辺 方 向	長 辺 方 向	備 考
S15	150	上 端 筋	D10・D13-@200	D10-@200	表面処理：Z12
		下 端 筋	D10-@200	D10-@200	
S15A	150	上 端 筋	D13-@200	D10・D13-@200	表面処理：Z12
		下 端 筋	D10・D13-@200	D10-@200	
S20	200	上 端 筋	D13-@200	D10・D13-@200	表面処理：Z27
		下 端 筋	D10・D13-@200	D10-@200	
S25	250	上 端 筋	D13-@200	D13-@200	
		下 端 筋	D13-@200	D13-@200	
CS1	300	上 端 筋	D13-@200	D10-@200	
		下 端 筋	D10-@200	D10-@200	



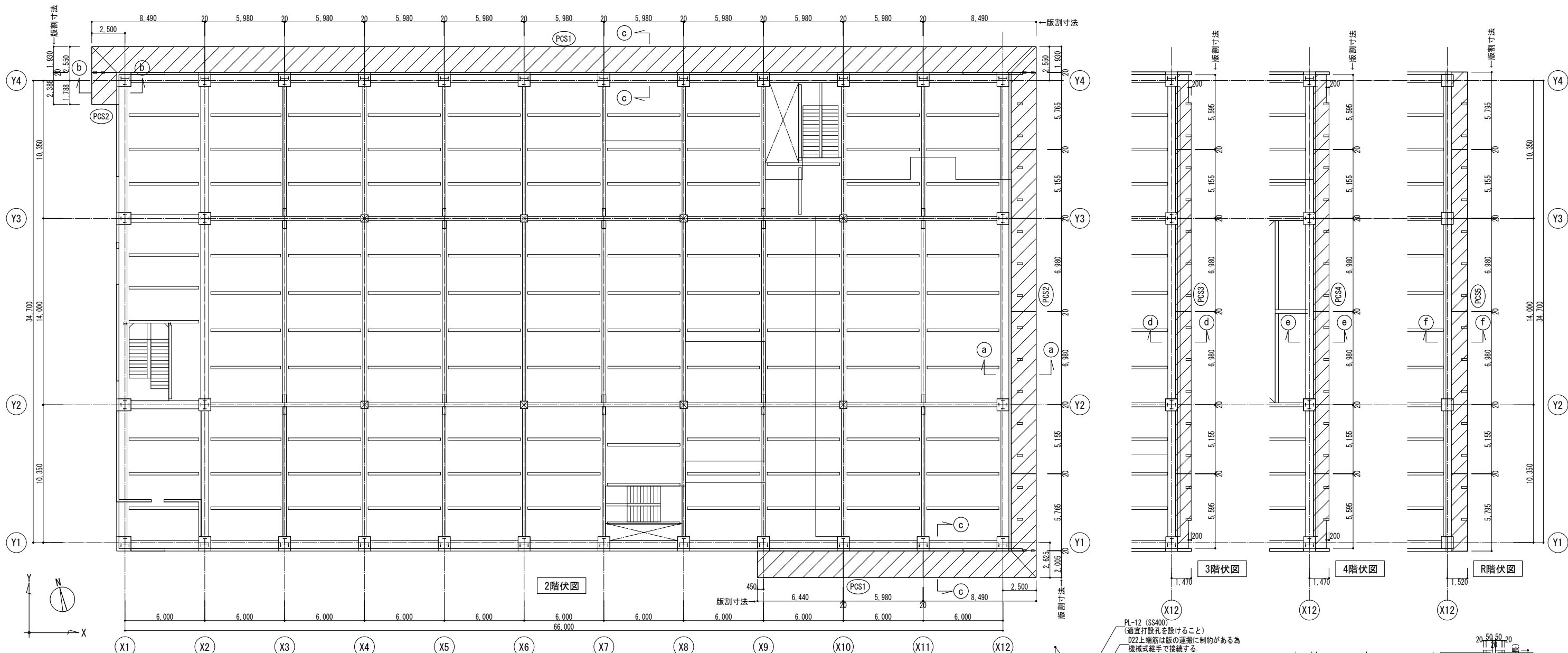
符 号		W18	W20	開口部補強要領		
縦 断 面						
		縦 筋	D13-@200 (ダブル)	D13-@200 (ダブル)		
		横 筋	D13-@200 (ダブル)	D13-@200 (ダブル)		
		開口部	縦 筋	2-D16	2-D16	a
			横 筋	2-D16	2-D16	b
	斜め筋	2-D13	2-D13	c		
巾止め筋		D10-@1,000				
備 考						

特記を除き  印はフルPCスラブ範囲を示す。



株式会社 佐藤総合計画

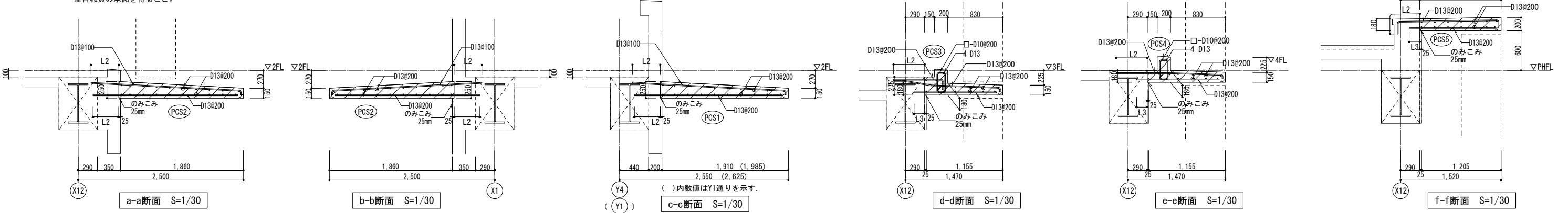
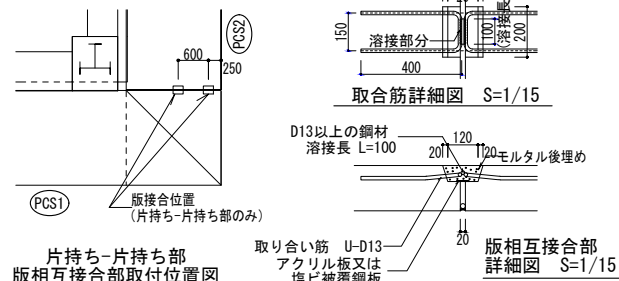
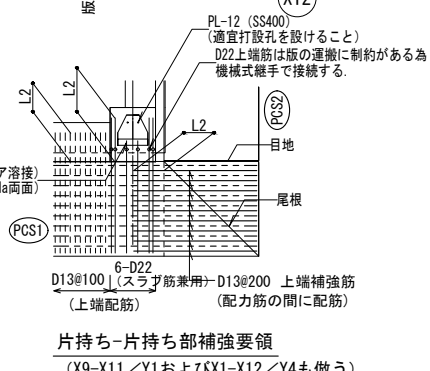
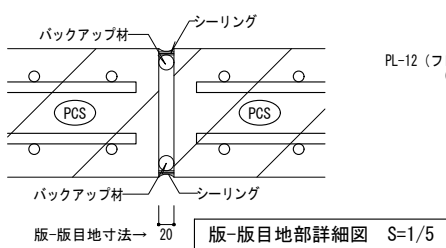
工事名称 南相馬市新庁舎建設建築主体工事			一級建築士事務所 登録番号 宮城県知事登録 第22210181号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号		種別 S - 055
図面名 RC部材リスト			総括 一級建築士第315658号 飯柴耕一	担当 一級建築士第323340号 高橋英雄 一級建築士第374585号 古川侑慧	通し番号
設計番号 04632-010	作成日 -	縮尺 A1 S=1/ 40 A3 S=1/ 80	構造関係図等に適合することを確認した 一級建築士 第306020号 構造設計一級建築士 第5334号 増垣 進司		
			設備関係図等に適合することを確認した 一級建築士 第359849号 設備設計一級建築士 第4808号 渡邊 森		



- 1) コンクリート 部材名 キャンチPCa床版 (PCS1, PCS2, PCS3, PCS4, PCS5)
設計基準強度 60 (N/mm²)
脱型時強度 30 (N/mm²)
- 2) 型枠 型枠は鋼製型枠とする。
- 3) 仕上 コンクリート打設面の仕上は金ゴテ仕上とする。
- 4) PCa底版の施工 PCa床版 (PCS1~5) が連層で配置される場合の支保工は2層受けとする。
- 5) 準拠図書 『建築工事標準仕様書・同解説 JASS10 プレキャスト鉄筋コンクリート工事』 2013年 日本建築学会
- 6) その他 在来工法へ変更の場合は、コンクリート強度は本体F_{cd}に倣うものとし、監督職員の承諾を得ること。
Pca部材製作工場は第三者機関での調査に基づいた認定を取得した工場を選定とし、監督職員の承諾を得ること。

キャンチPCa床版 (PCS1~5) KEYPLAN S=1/150

符 号	版 厚 (mm)	位 置	短辺方向 (主力筋方向)	長辺方向 (配力筋方向)	備 考
PCS1 PCS2	150~250	上端筋 下端筋	D13@100 D13@200	D13@200 D13@200	キャンチスラブ (フルPCa版) 在来スラブ可
PCS3 PCS4	150~180	上端筋 下端筋	D13@200 D13@200	D13@200 D13@200	
PCS5	180~200	上端筋	D13@200	D13@200	
		下端筋	D13@200	D13@200	



特記を除き 鉄骨材質 SS400 , 高力ボルト F10T,S10T,ただし、ピット階および屋外はF8Tとする。

鉄骨小梁リスト 1/40 GPL ,SPLは取り付く部材と同強度とする。縦スチフナはGPLと同厚・同材質とする。

TYPE A							
TYPE B							
TYPE C							
符 号	部 材	TYPE	H.T.B.	ウェブ			
				nW x mW	P	GPL	2SPL-3
SB20	C-200x80x7.5x11	B	M20	1 x 2	60	9	
SB40	H-400x200x8x13	B	M20	1 x 4	60	12	
SB45	H-450x200x9x14	B	M20	1 x 5	60	12	
SB50	H-500x200x10x16	C	M20	1 x 5	60	9	9 x 320 x 170
SB60	H-600x200x11x17	C	M20	1 x 5	90	12	9 x 440 x 170
SB80	H-800x300x14x26	C	M20	1 x 7	90	12	9 x 620 x 170

小梁剛接合リスト 1/40 特記を除き GPL ,SPLは取り付く部材と同強度とする。縦スチフナはGPLと同厚・同材質とする。

符 号										
部 材										
H.T.B.	フランジ	ウェブ	JOINT位置 L	鉄骨材質						
					nF x mF	P	2SPL-3			
SB80	全断面	H-800x300x14x26	M22	7 x 2	19x300x710 19x110x710	7 x 2	90	12x620x290	1,200	SN490B F10T・S10T
MSB100	端部 中央	SH-1,000x350x16x28 SH-1,000x350x16x25	M22	5 x 4	22x350x530 25x140x530	14 x 2	60	16x860x290	1,200	SN490B F10T・S10T・F8T

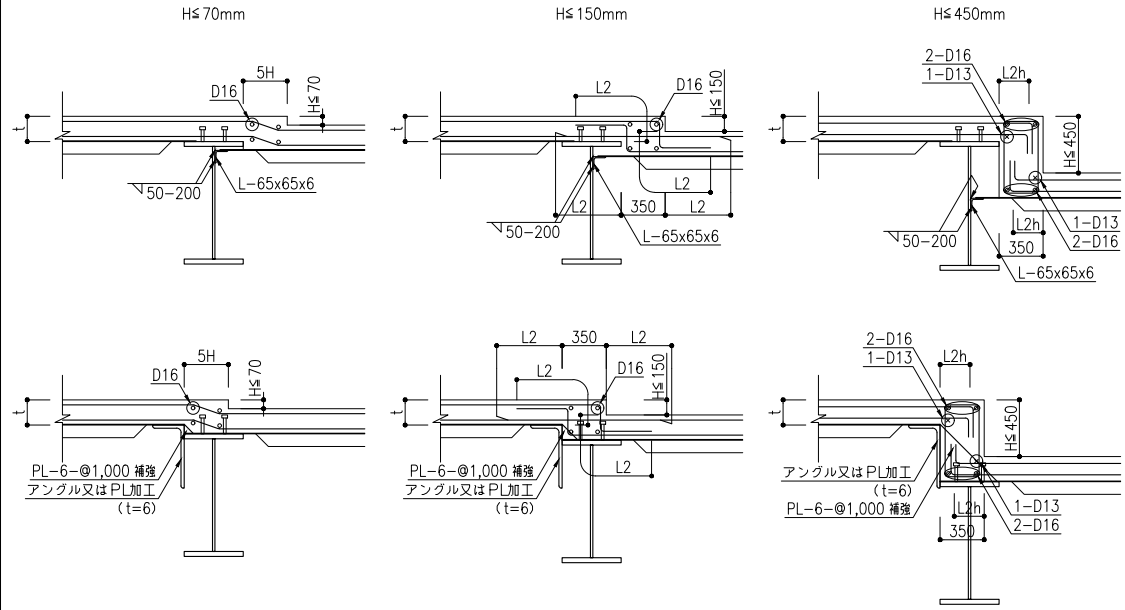
特記を除き 鉄骨材質 SS400, H.T.B. S10T, A.Bolt SS400

鉄骨階段リスト 間柱の高力ボルトの本締めはコンクリート打設後に行うこと。

階段名称	受 け 梁	間 柱	サ サ ラ	備 考
階段1	KB1 H-300x150x6.5x9	KP1 H-150x150x7x10	PL-16x300	GPL-12, 3-M20
階段2	KB2 H-300x150x6.5x9	KP2 H-150x150x7x10	PL-25x1,520(内ササラ) PL-25x390(外ササラ)	GPL-12, 3-M20
階段3	KB3 H-300x150x6.5x9	KP3 H-150x150x7x10	PL-16x300	GPL-12, 3-M20
メンテナンス階段	KB1 H-300x150x6.5x9		PL-16x300	GPL-12, 3-M20, 吊り材 L-75x75x6

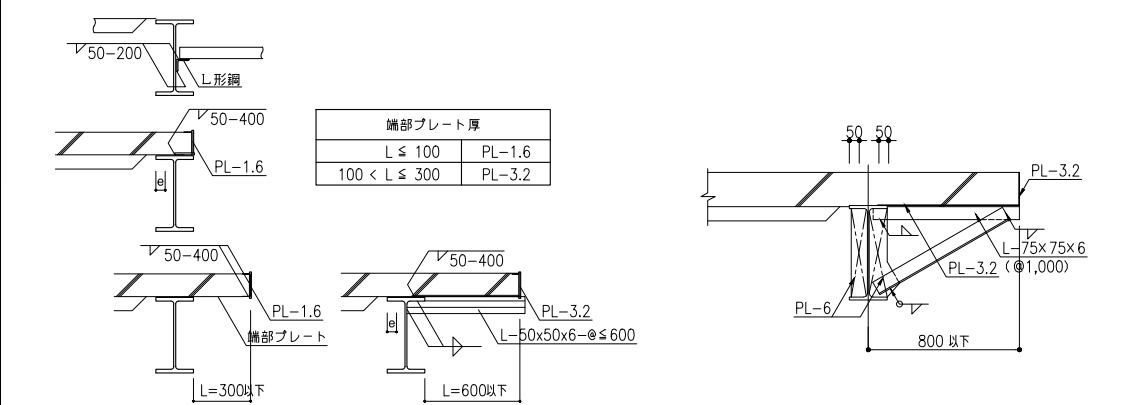
スラブ段差

1/30



スラブはね出し部 デッキ受け要領

1/30

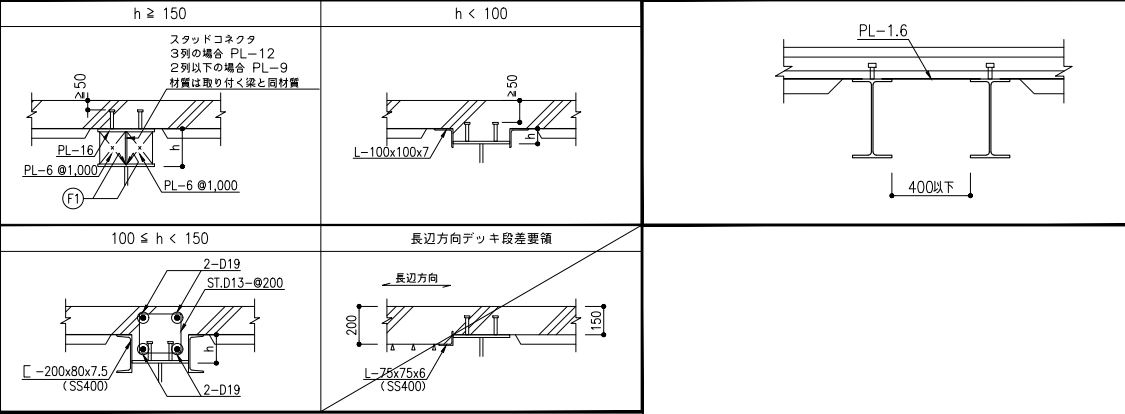


梁上かさ上げ要領

1/20

短スパンのスラブ

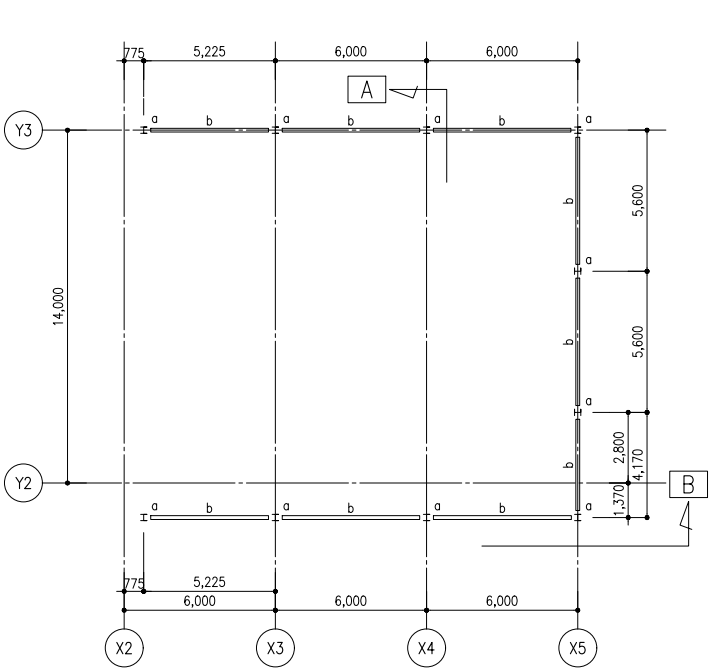
1/30



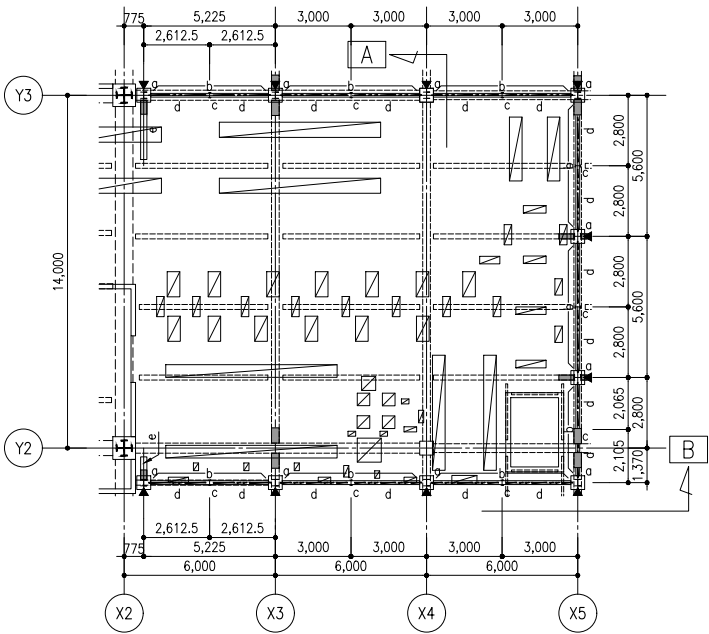
				AXS		工事名称 南相馬市新庁舎建設建築主体工事		一級建築士事務所 登録番号 宮城県知事登録 第22210181号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号		種別 S - 057		
						図面名 S部材リスト		総括 一級建築士第315658号 飯柴耕一		担当 一級建築士第323340号 高橋英雄 一級建築士第374585号 古川侑慧	通し番号	
				株式会社 佐藤総合計画		設計番号 04632-010		作成日 -		編尺 A1 S=1/ 40 A3 S=1/ 80	構造関係図等に適合することを確認した 一級建築士 第306020号 構造設計一級建築士 第5334号 増埜 進司	設備関係図等に適合することを確認した 一級建築士 第359849号 設備設計一級建築士 第4808号 渡邊 森

特記を除き	鉄骨材質	SS400
	高力ボルト	F8T
	溶融亜鉛めっき処理	
▼	印は鉄骨柱の強軸方向を示す。	
— — —	印は鉛直ブレースを示す。	
≡ ≡ ≡	印は剛接合を示す。	
	H鋼横使いのウェブには適切な位置および寸法の水抜き孔を設けること。	

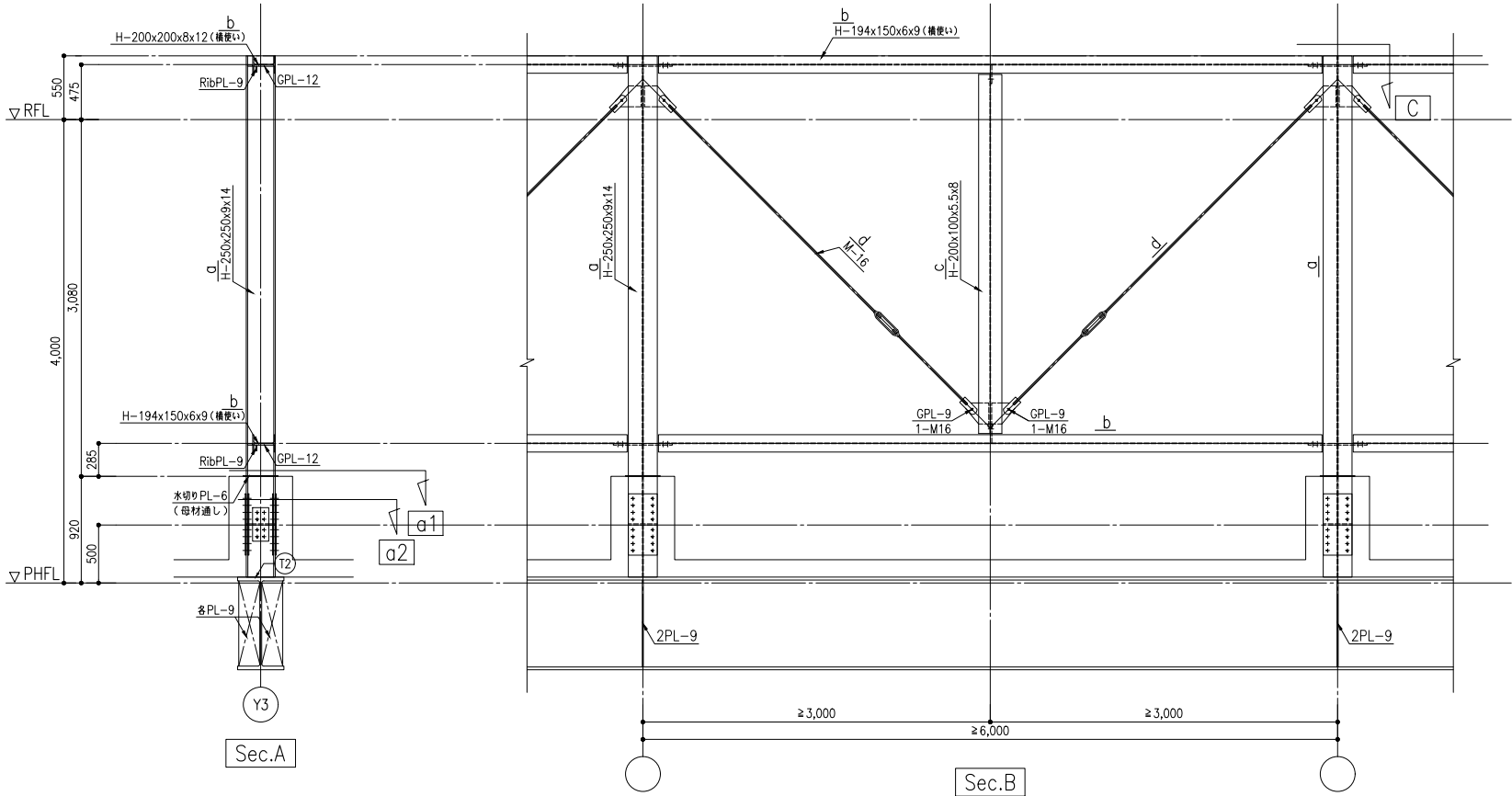
符号	部 材	鉄骨材質	備 考
a	H-250x250x9x14	SS400	G.PL-12, 2-M20
b	H-194x150x6x9 (横使い)	〃	G.PL-12, RibPL-9, 2-M16
c	H-200x100x5.5x8	〃	G.PL-9, 2-M16
d	M-16 (JISスタンパクルブレース)	-	G.PL-9, 1-M16
e	H-250x250x9x14	〃	G.PL-12, 2-M20



R階伏図

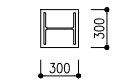


P H階伏図



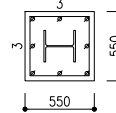
Sec.A

Sec.B



水切り PL-6

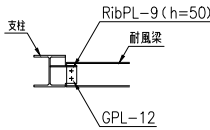
Sec.a1



主筋 8-D16

フープ D13-@100

Sec.a2

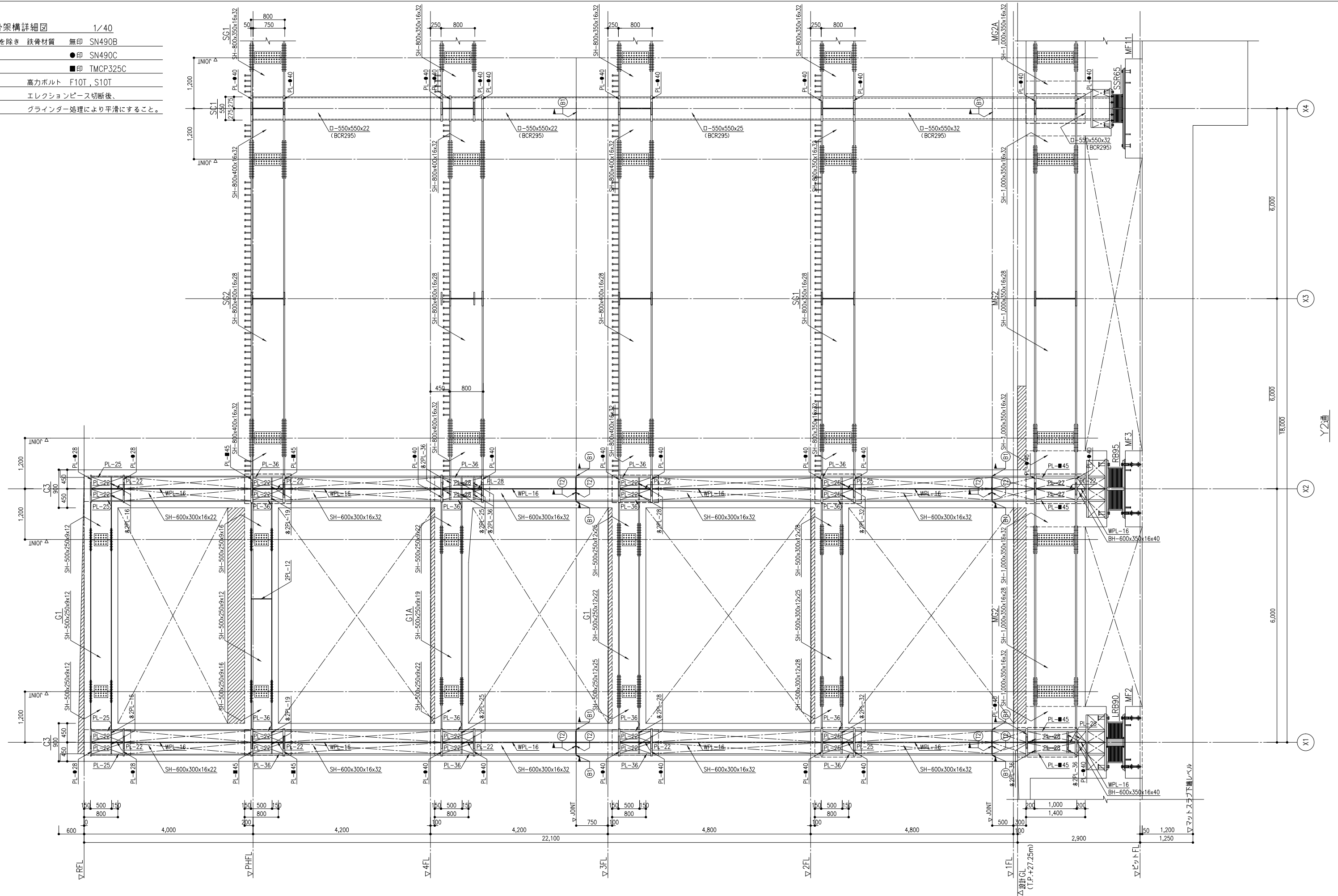


Sec.C



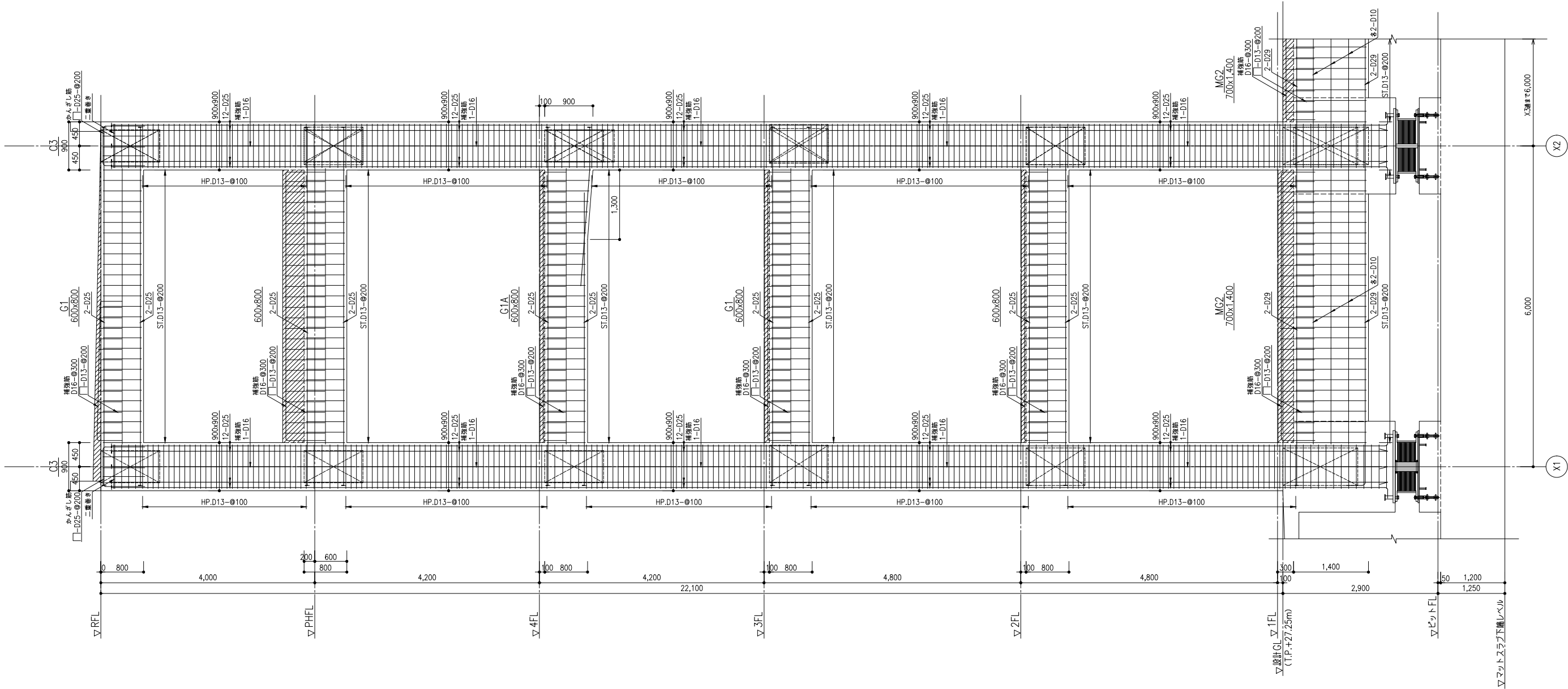
工事名称 南相馬市新庁舎建設建築主体工事		一級建築士事務所 登録番号 宮城県知事登録 第22210181号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号		種別 S - 058
図面名 目隠し詳細図		総括 一級建築士第315658号 飯柴耕一	担当 一級建築士第323340号 高橋英雄 一級建築士第374585号 古川侑慧	通し番号
設計番号 04632-010	作成日 -	縮尺 A1 S=1/ 30 A3 S=1/ 60	構造関係図等に適合することを確認した 一級建築士 第306020号 構造設計一級建築士 第5334号 増垣 進司	設備関係図等に適合することを確認した 一級建築士 第359849号 設備設計一級建築士 第4808号 渡邊 森

特記を除き	鉄骨材質	無印	SN490B
		●印	SN490C
		■印	TMCP325C
	高力ボルト	F10T, S10T	
	エレクトロンビース切断後、		
	グライNDER処理により平滑にすること。		

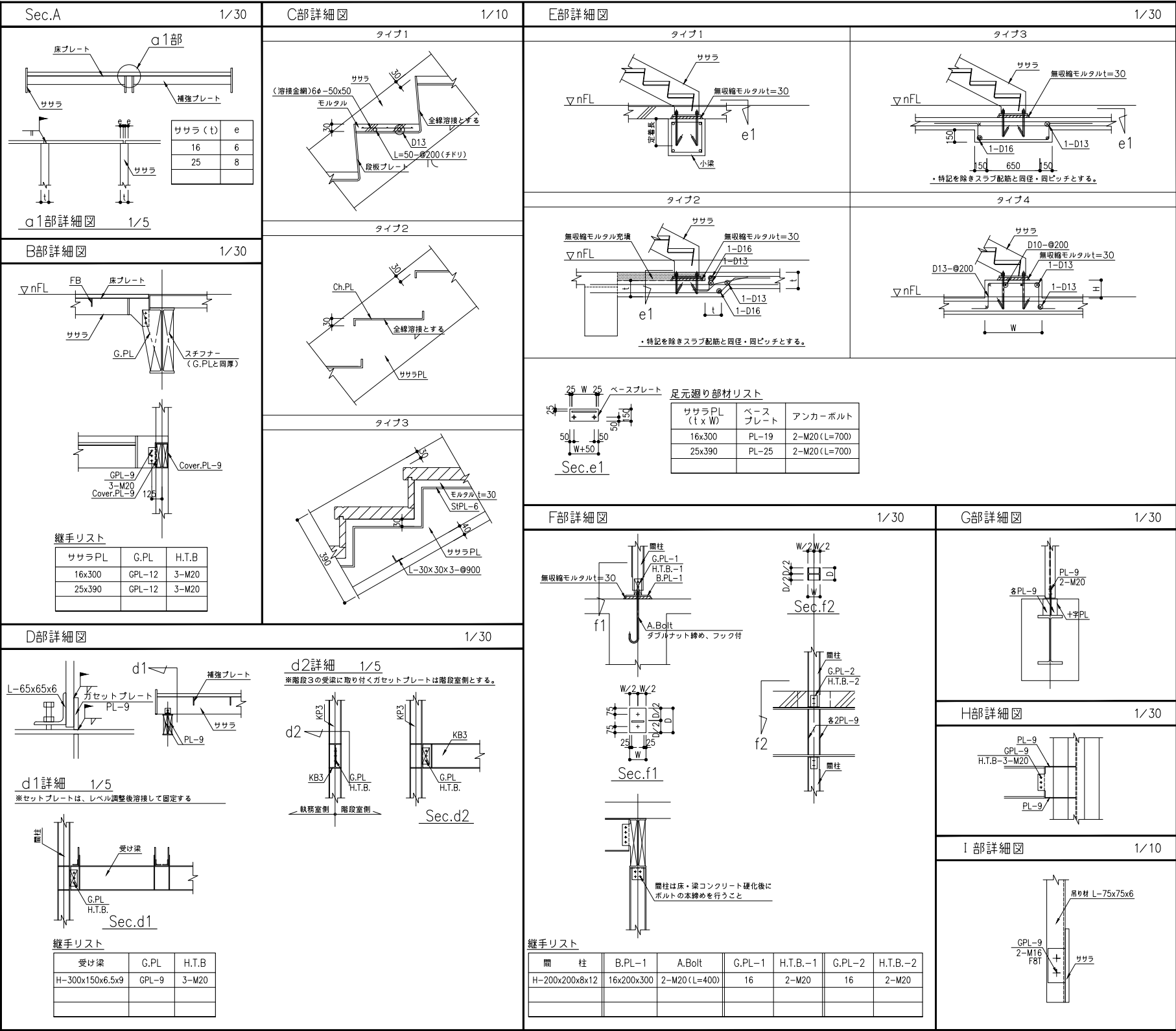


ラーメン配筋詳細図 1/40

特記を除き	仕口内フープ	D13-@150,	補助フープ	D13-@300,	フープは溶接閉鎖型とする
腹筋	2-D10,	巾止め筋	D10-@1,000,		印は打増しを示す。
鉄筋材質	D13・D16	SD295,	D25	SD345,	D29 SD390



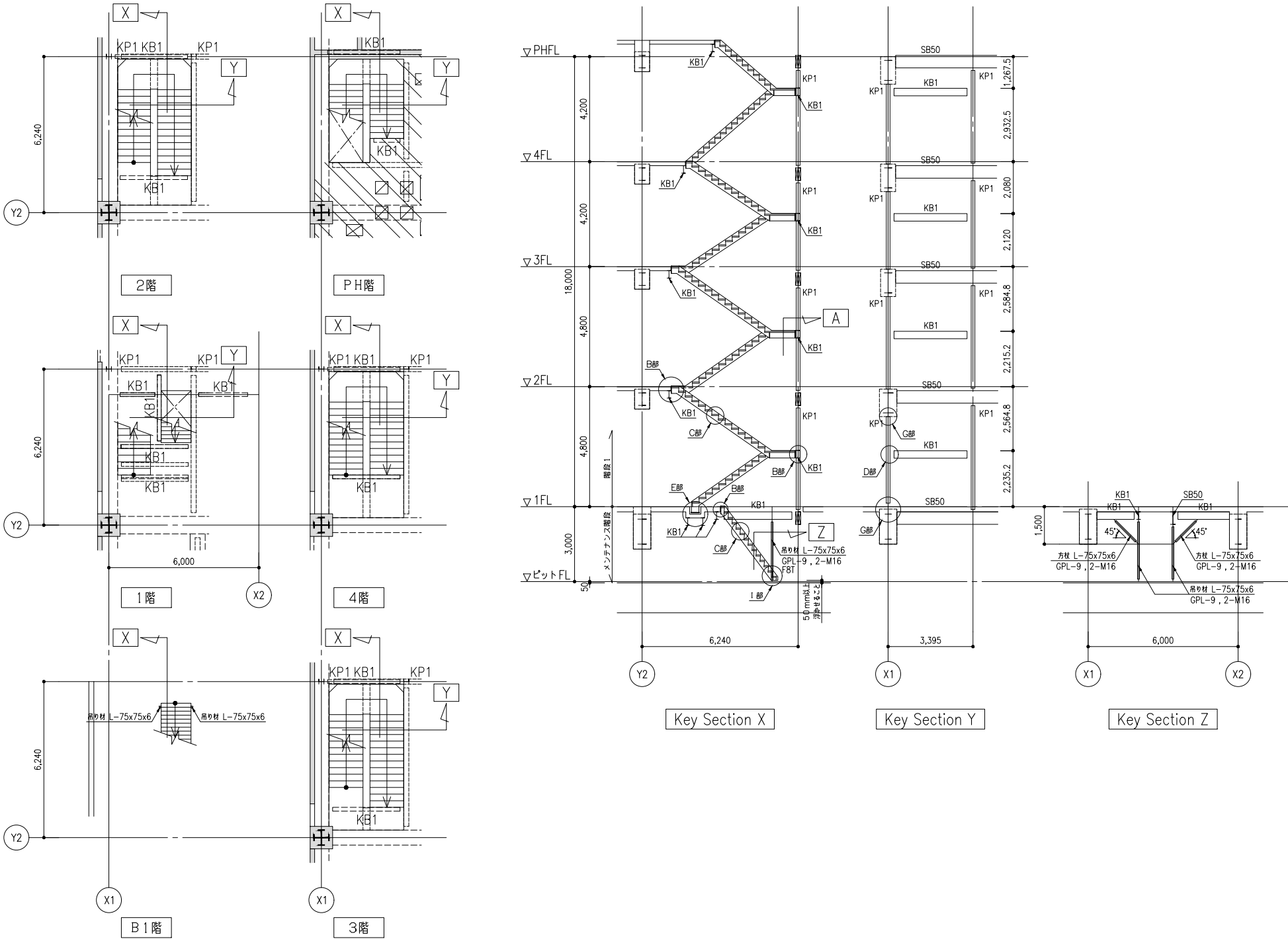
				AXS 株式会社 佐藤総合計画		工事名称 南相馬市新庁舎建設建築主体工事		一級建築士事務所 登録番号 宮城県知事登録 第22210181号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号		種別 S - 060
				図面名 ラーメン配筋詳細図		設計番号 04632-010		作成日 -		縮尺 A1 S=1/ 40 A3 S=1/ 80
				設計者 一級建築士第315658号 飯柴耕一		監理者 一級建築士第323340号 高橋英雄 一級建築士第374585号 古川侑慧		構造関係図面に適合することを確認した 一級建築士 第306020号 構造設計一級建築士 第5334号 増垣 進司		設備関係図面に適合することを確認した 一級建築士 第359849号 設備設計一級建築士 第4808号 渡邊 森
										通し番号 -



部材リスト

階段名称	受 け 梁	間 柱	サ サ ラ	C 部		床プレート	補強プレート	E 部	備 考
				タイプ	プレート厚			タイプ	
階段 1	KB1 H-300x150x6.5x9	KP1 H-150x150x7x10	PL-16x300	1	4.5	PL-6	FB-9x100-φ300	3	
メンテナンス階段	KB1 H-300x150x6.5x9		PL-16x300	1	4.5	PL-6	FB-9x100-φ300	-	

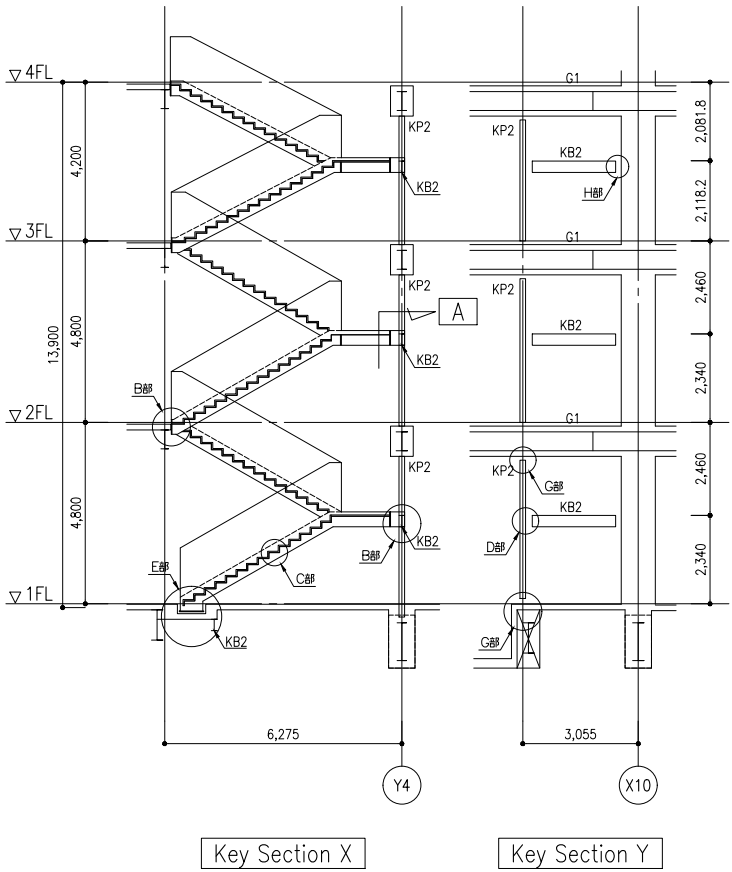
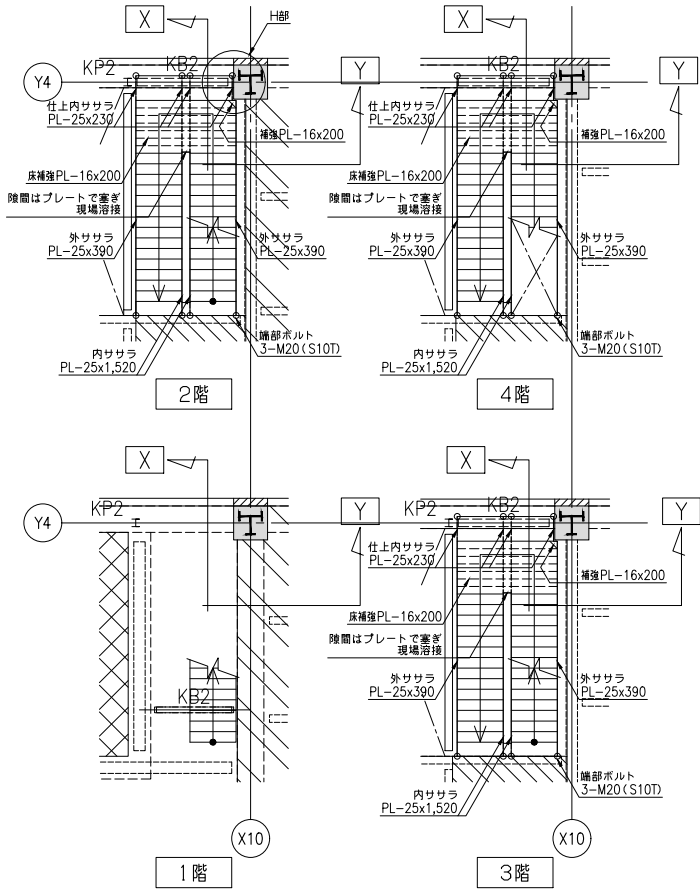
KeyPlan 1/100



部材リスト

階段名称	受 け 梁	間 柱	サ サ ラ	C 部		床プレート	補強プレート	E部 タイプ	備 考
				タイプ	プレート厚				
階段2	KB2 H-300x150x6.5x9	KP2 H-150x150x7x10	PL-25x1,520(内ササラ) PL-25x390(外ササラ)	3	6	PL-6	FB-9x100-@300	3	段差仕上げあり

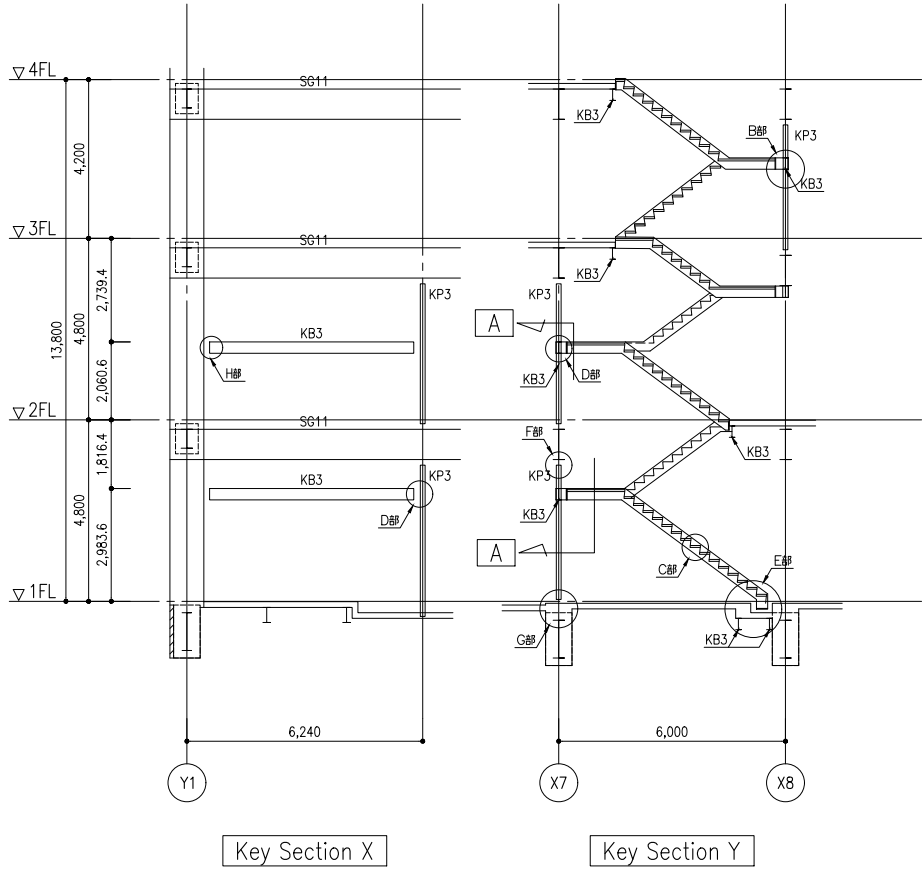
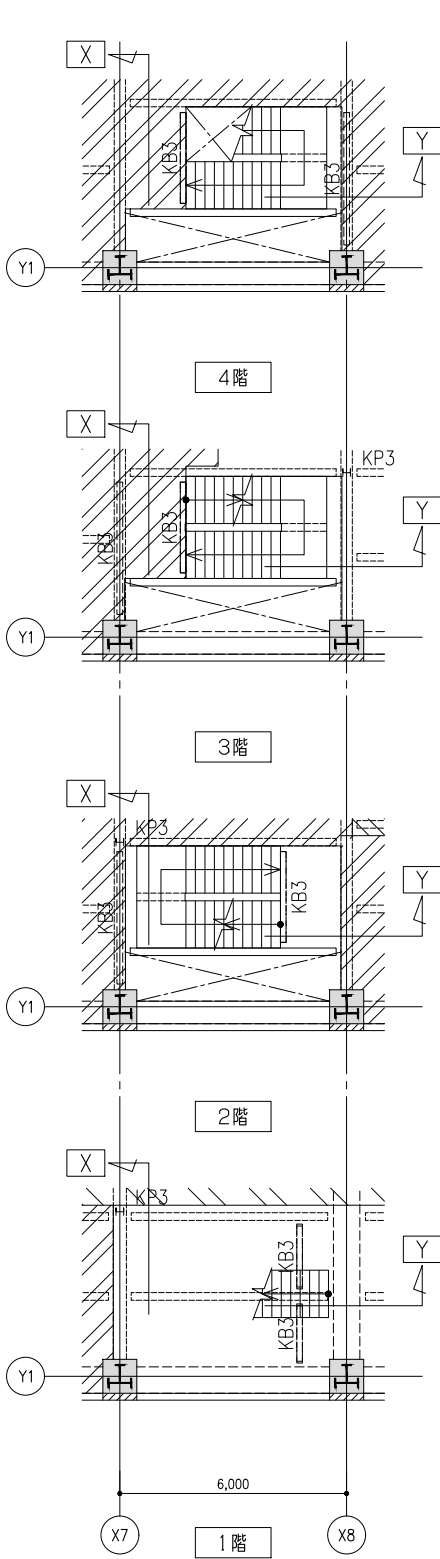
KeyPlan 1/100



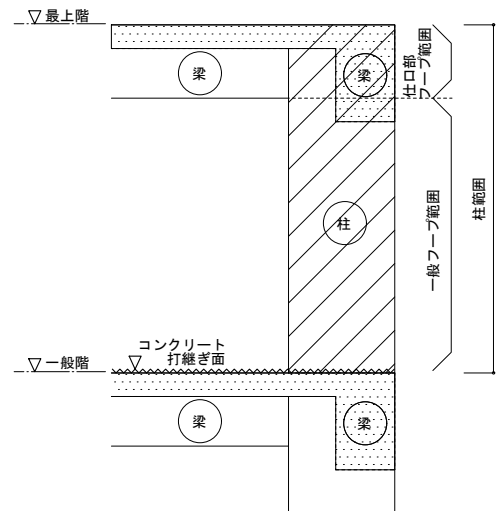
部材リスト

階段名称	受 け 梁	間 柱	サ サ ラ	C 部		床プレート	補強プレート	E部 タイプ	備 考
				タイプ	プレート厚				
階段3	KB3 H-300x150x6.5x9	KP3 H-150x150x7x10	PL-16x300	1	4.5	PL-6	FB-9x100-@300	2	

KeyPlan 1/100



柱範囲及び仕口部フープ

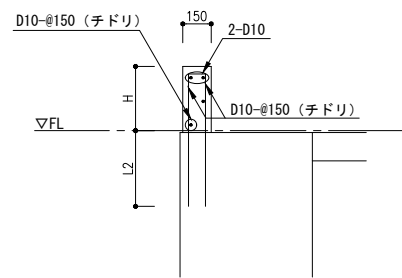


※基礎梁も含む

一般フープ : H形(タガ形)
(高強度せん断補強筋はスパイラルフープ又は溶接閉鎖型)

仕口部フープ：H形(タガ形)
SRC造の場合は、L字鉄筋を4か所フレア溶接とする

立ち上がり壁配筋要領図



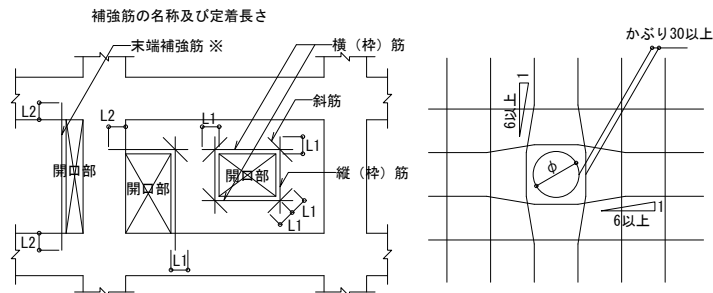
注) $H \leq 500$ とする

壁開口部補強要領図

壁開口部の補強は縦・横の枠筋及び斜筋にて行う。ただし、壁開口の最大径が両方向の壁主筋間隔以下の
場合で開口部を避けて配筋する場合は、補強を省略することができる。

棒筋、斜筋、補強筋の径および本数は構造図による。

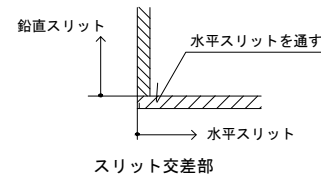
※末端部補強筋の径、本数の図示がない場合は、開口補強縦（枠）筋に同じとする。



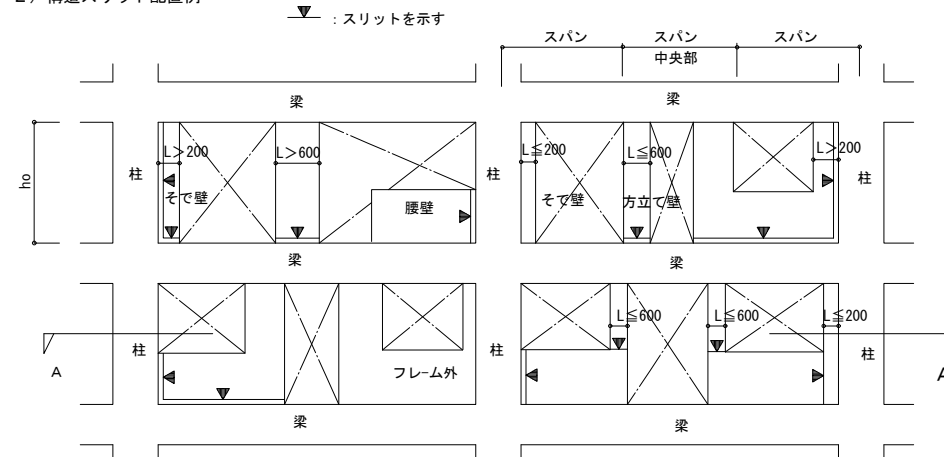
構造スリット

1) 共通事項

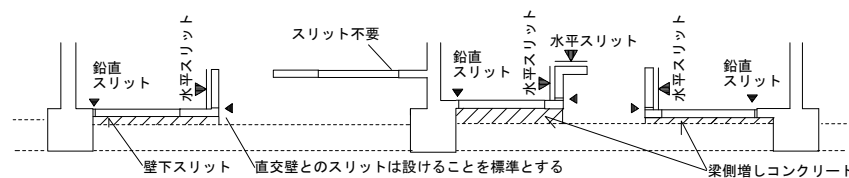
- ・ スリット幅は、設計時の層間変形を考慮して定める。(25mm かつ ho/200 [RC造、SRC造]、ho/100 [S造] 以上)
- ・ スリット材は、以下の性能について、所定の性能を確保できるものとする。
 - ・ 層間変形追従性能、・ 耐火性能、・ 水密性能、・ 遮音性能
- ・ 「(構造スリット施工管理マニュアル) (BGS) による性能試験に合格したスリット材を採用する。」
- ・ 鉛直スリットは完全スリット型、水平スリットは完全スリット型とする。
- ・ スリット材の取合い部の施工に関して、事前に関連する業者（鉄筋、型枠、コンクリート打込み業者）と打合せを行う。



2) 構造スリット配置例



壁位置が構面外の場合の扱い

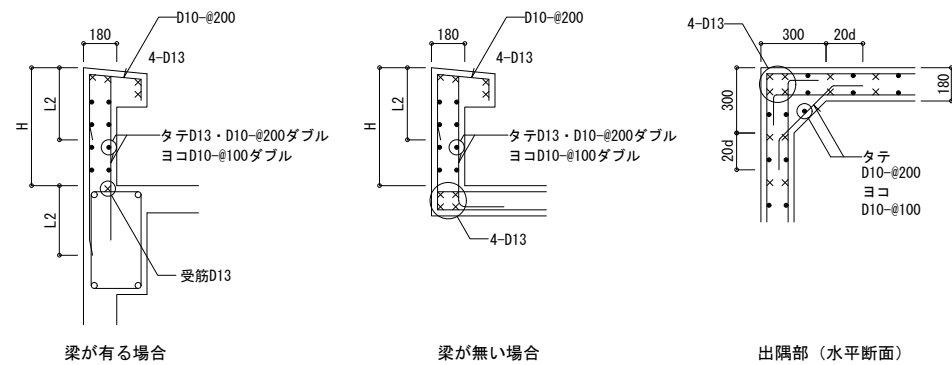


A—A 断面

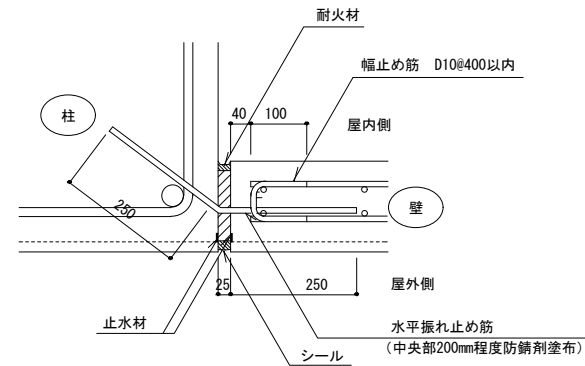
パラペット

パラペット (H≤1200)

- ・パラベットの鉄筋はL2定着とする。
- ・パラベットのひび割れ対策は、「ひび割れ誘発目地要領」による。
- ・パラベットのアゴ部寸法は意匠図による。

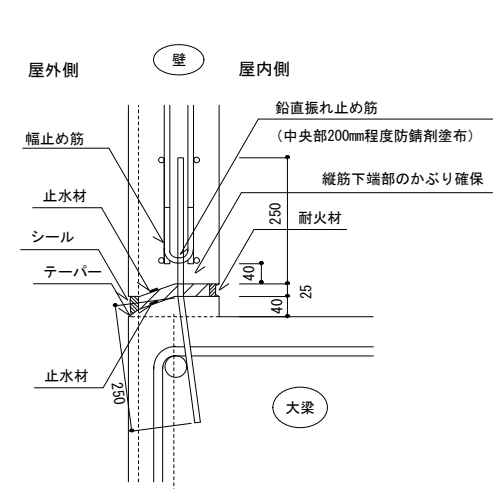


3) 鉛直スリット（完全スリット型）

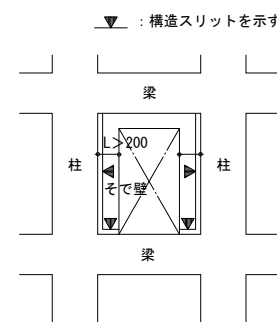


- ・ 直接雨掛りとなる場合、止水性の高いタイプを使用する事。
- ・ 鉛直スリット部の振れ止め筋の養生材は設けることを標準とする。
- ・ コンクリート打設時の鉛直スリット材の曲がり・移動防止のための対策を講じること。

4) 水平スリット（完全スリット型）



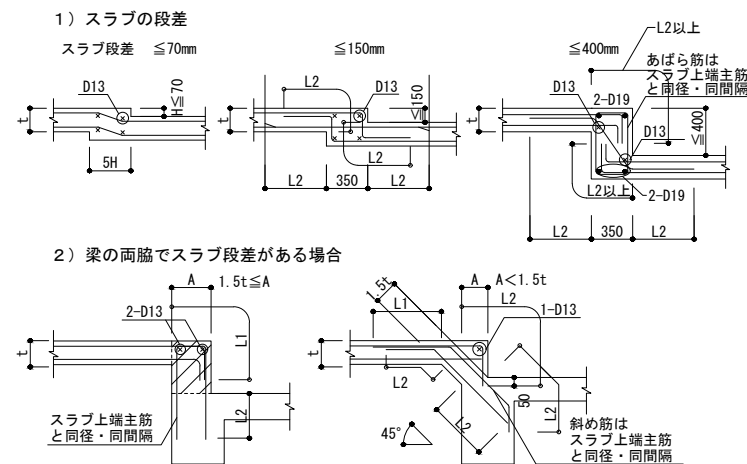
構造スリット配置例



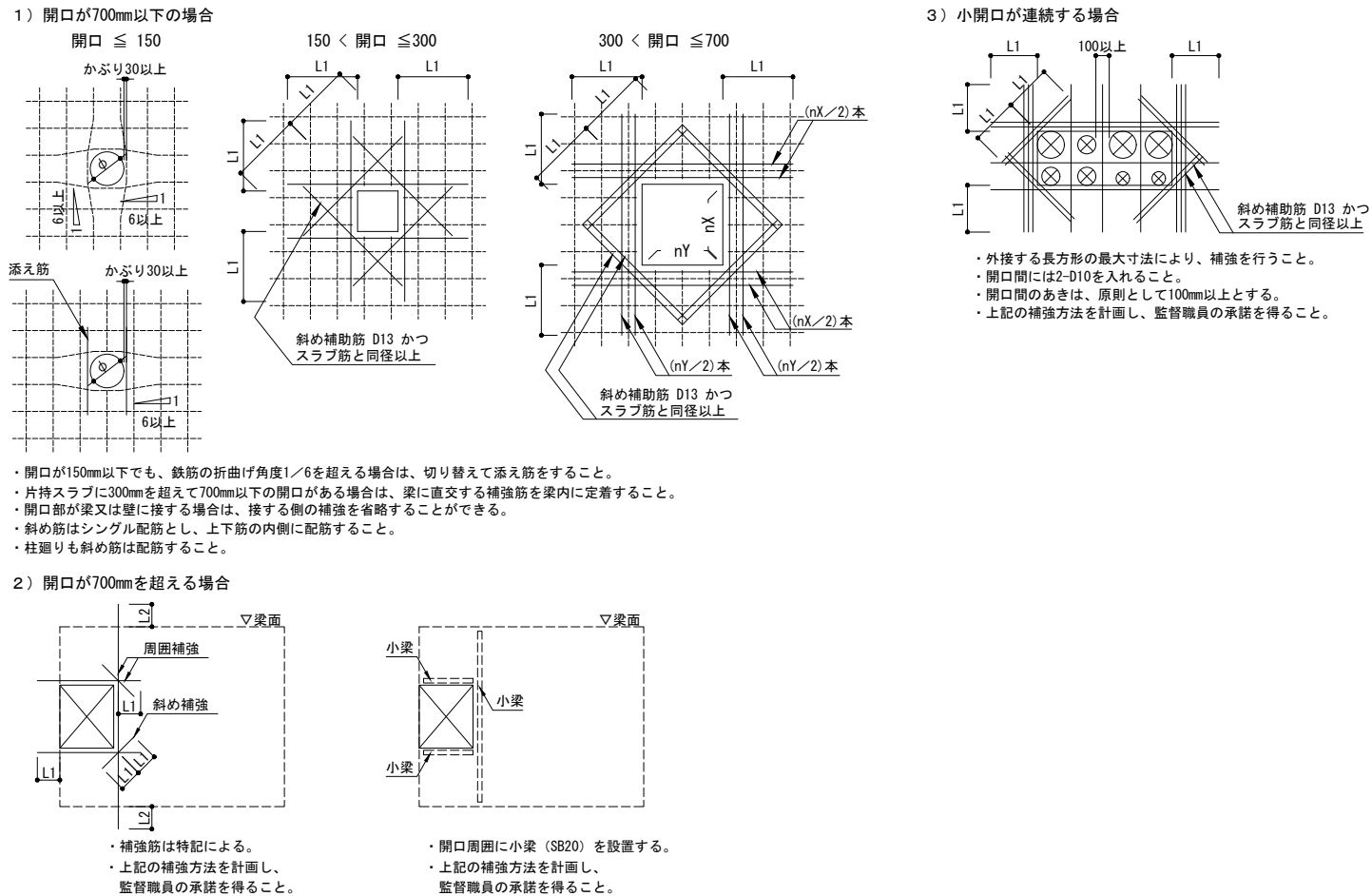
ho (mm)	水平振れ止筋	鉛直振れ止筋
ho ≤ 3000	D13@400	D13@400
ho ≤ 4000	D13@400	D13@300
ho ≤ 5000	D13@400	D13@200
ho ≤ 6000	D13@400	D13@200

- ・ 直接雨掛りとなる場合、止水性の高いタイプを使用する事。
- ・ 水平スリット部の振れ止め筋の養生材は設けることを標準とする。
- ・ 直接雨掛りとならない場合、テープは必要ない。

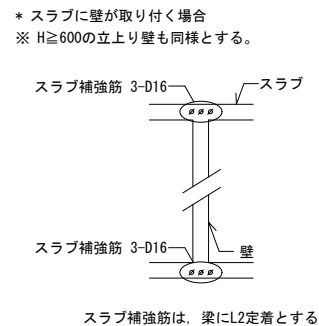
スラブ段差納まり要領図



スラブの開口補強要領図



スラブの壁受け要領



貫通孔リスト

階	符号	主材	孔徑	箇所数	補強形式(S部)	補強形式(RC部)
1	MG2	700×1400 / H-1000×350	φ200	3	S- 015 による	H1 (S-009)による)
	MG11	700×1400 / H-1000×300	φ200	11		
	MG12	700×1400 / H-1000×250	φ200	3		
	MSG1	H-1000×350	φ200	6		
2	MSB100	H-1000×350	φ200	1		
	SG1	H-800×350	φ100	8		
			φ200	10		
			φ200	6		
3	SG11	H-800×300	φ200	6		
	SG1	H-800×350	φ200	4		
	SG2	H-800×400	φ250	1		
	SG11	H-800×300	φ200	9		
			φ250	2		
			φ300	5		
	SG12	H-800×300	φ200	1		
	SB80	H-800×300	φ200	3		
4	SG1	H-800×350	φ250	1		
			φ300	1		
	SG11	H-800×300	φ150	1		
			φ200	2		
			φ250	8		
			φ300	4		
			φ375	12		
	SG11A	H-800×350	φ250	1		
PH	SB80	H-800×300	φ300	1		
	SG1	H-800×350	φ200	1		
			φ350	2		
	SG2	H-800×400	φ300	1		
			φ300	1		
	SG11	H-800×300	φ200	8		
			φ350	9		
	SG12	H-800×300	φ200	1		
	CSG1	H-700×300	φ200	3		
	SB80	H-800×300	φ350	1		

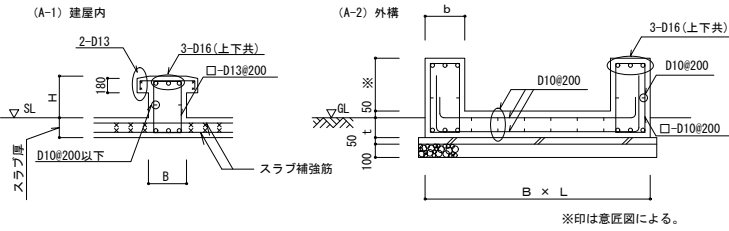
壁貫通				
階	符号	開口サイズ	箇所数	補強形式
免震	RW30	50Φ	19	S-064による
		100Φ	20	
		150Φ	17	

床開口					
階	符号	開口サイズ	箇所数	補強形式	
免震	S20	φ 600	18		
1	S20	150φ	1		
		250φ	4		
		300φ	1		
		350×350	25		
		500×500	1		
		550×550	1		
		600×600	3		
		600×100	1		
2	S15	800×200	2		
		300×300	1		
		600×200	1		
		1000×100	1		
		S15A	1200×200	2	
	S15A	300×300	1		
3	S15	φ 150	1		
		φ 300	11		
		300×300	1		
		450×450	2		
		500×500	4		
		800×200	1		
	S15A	350×350	1		
		400×400	1		
		550×550	1		
		1000×100	1		
		1200×200	2		
4	S15	300×300	1		
		400×400	4		
		450×450	2		
		800×200	1		
		1000×100	1		
		1200×200	2		
	S15A	φ 150	2		
		φ 200	2		
		φ 250	4		
		400×400	1		
PH	S15	650×400	2		
		φ 300	1		
		350×350	1		
		400×400	4		
			450×450	3	
		S15A	500×400	2	
		1000×200	1		

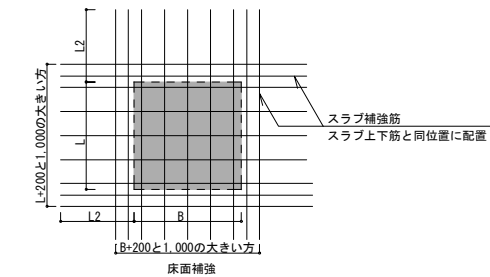
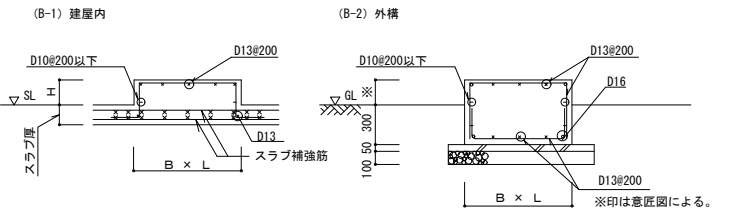
[illegible]

設備機器基礎配筋要領

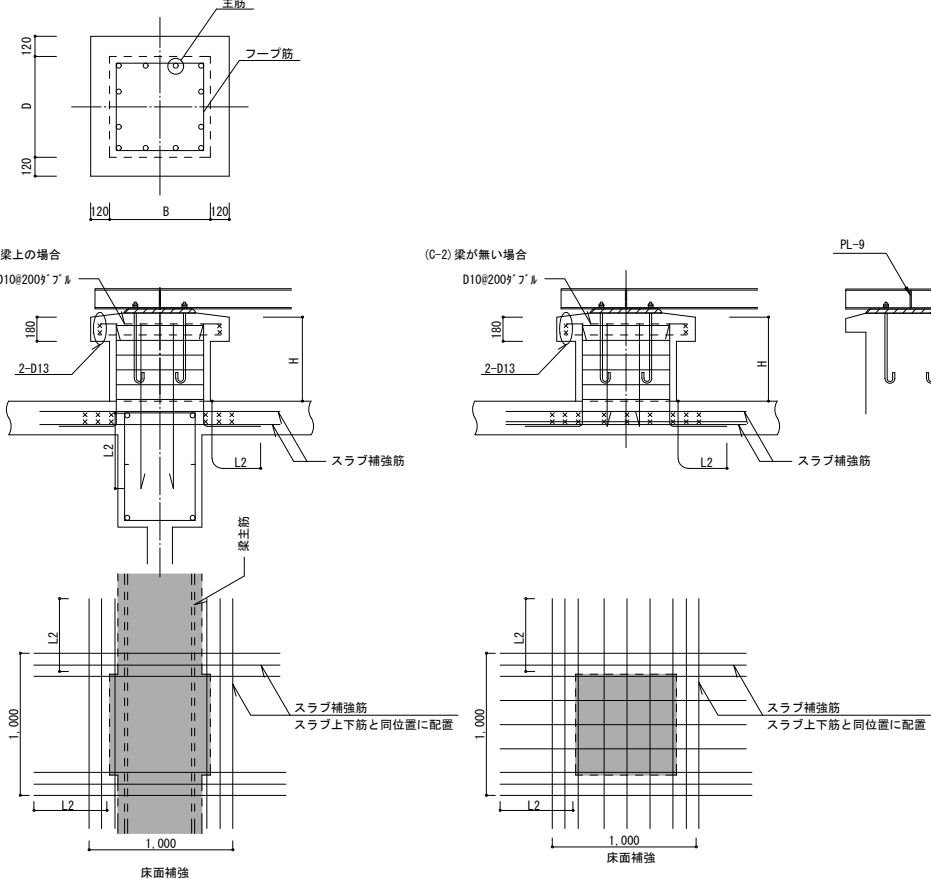
(A) ゲタ基礎



(B) ベタ基礎



(C) 独立基礎詳細図



ゲタ基礎・ベタ基礎

階	基礎名称	B	L	H	箇所数	形状	スラブ補強筋
4階	aa	700	3850	300	1	B-1	D13-@200
	ab	700	4850	300	1	B-1	D13-@200
	ac	500	1700	500	3	A-1	D10-@200
	ad	300	800	300	7	A-1	D10-@200
	ae	500	2850	500	3	A-1	D10-@200
	af	500	1600	500	3	A-1	D10-@200
	ag	300	850	300	7	A-1	D10-@200
	ah	300	1300	300	1	A-1	D10-@200
	ai	300	600	300	2	A-1	D10-@200
	aj	300	1000	300	1	A-1	D10-@200
	ak	300	500	300	2	A-1	D10-@200
	al	500	500	150	8	B-1	D10-@200
	am	700	785	150	1	B-1	D10-@200
	az	600	600	300	1	B-1	D10-@200
	動力盤②	3000	400	500	1	B-1	D13-@200
	動力盤③	1600	400	200	1	B-1	D10-@200
	分電盤①	1600	300	200	1	B-1	D10-@200
	an	1750	500	600	4	A-1	D13-@200
	ao	1500	1000	300	1	B-1	D13-@200
	ap	830	560	300	1	B-1	D10-@200
3階	cb	600	1500	300	1	B-1	D10-@200
	動力盤④	1600	400	200	1	B-1	D10-@200
	動力盤⑤	1600	400	200	1	B-1	D10-@200
	分電盤②	1600	300	200	1	B-1	D10-@200
	ar	300	800	500	3	A-1	D10-@200
2階	as	900	900	300	1	B-1	D10-@200
	at	900	900	300	1	B-1	D10-@200
	db	900	2100	300	2	B-1	D10-@200
	動力盤⑥	1600	400	200	1	B-1	D10-@200
	分電盤③	1600	300	200	1	B-1	D10-@200
1階	au	2060	500	600	4	A-1	D10-@200
	av	2160	500	600	4	A-1	D10-@200
	aw	900	900	300	2	B-1	D10-@200
	ax	700	1000	300	1	B-1	D10-@200
	ay	700	750	300	1	B-1	D10-@200
	az	600	600	300	1	B-1	D10-@200
	オイルギアポンプ	500	500	300	2	B-1	D10-@200
	動力盤⑦	2300	400	200	1	B-1	D10-@200
免震階	分電盤④	1600	300	200	1	B-1	D10-@200
	ba	700	1500	150	1	B-1	D10-@200
	bb	900	400	150	1	B-1	D10-@200
	bc	840	1250	300	1	B-1	D10-@200
	da	500	500	150	4	B-1	D10-@200
	db	300	500	300	41	A-1	D10-@200
	dc	300	1000	300	17	A-1	D10-@200

ゲタ基礎・ベタ基礎

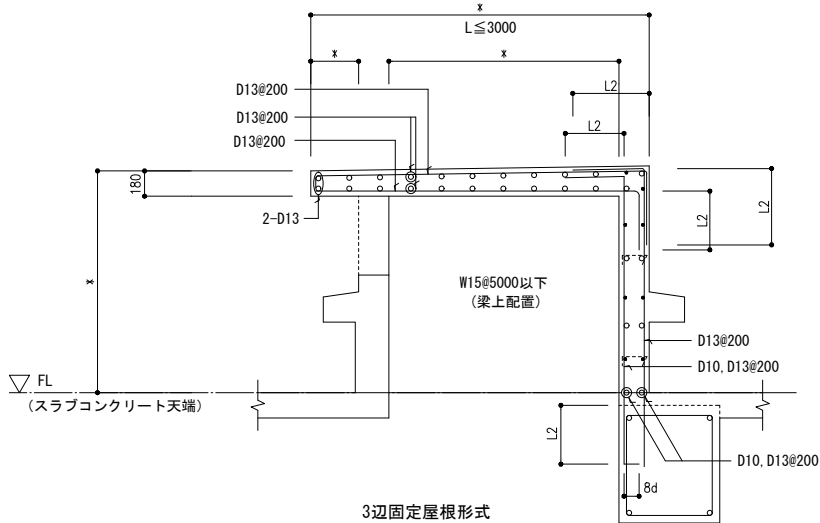
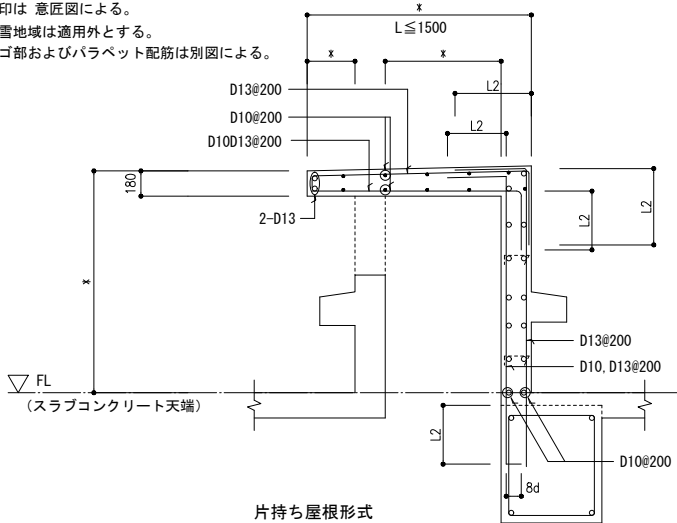
階	基礎名称	B	L	H	箇所数	形状	スラブ補強筋
P1階	a	500	2600	500	6	A-1	D10-@200
	b	500	1700	500	2	A-1	D10-@200
	c	500	5700	500	2	A-1	D13-@200
	d	1700	500	500	3	A-1	D10-@200
	e	500	1950	500	2	A-1	D10-@200
	k	300	1300	300	11	A-1	D10-@200
	l	300	1000	300	2	A-1	D10-@200
	m	300	600	300	12	A-1	D10-@200
	n	300	700	300	72	A-1	D10-@200
	o	300	500	300	23	A-1	D10-@200
	q	300	1200	300	1	A-1	D10-@200
	r	300	850	300	2	A-1	D10-@200
	s	300	1250	300	3	A-1	D10-@200
	t	1420	1420	150	1	B-1	D13-@200
	u	900	900	150	2	B-1	D10-@200
	v	700	700	150	1	B-1	D10-@200
	w	500	500	150	8	B-1	D10-@200
P2階	ca	750	300	500	2	A-1	D10-@200
	パラボラアンテナ	1000	1000	500	1	B-1	D10-@200
	オイルタンク	2700	500	500	2	A-1	D13-@200
	動力盤⑧	4400	400	500	1	B-1	D13-@200
	発電機	6000	500	500	2	A-1	D13-@200

独立基礎

階	基礎名称	B	D	H	箇所数	主筋	Hoop	スラブ補強筋
P1階	避雷針	600	600	500	5	8-D16	D10-@100	D13-@200
	太陽光	700	700	500	114	8-D16	D10-@100	D13-@200

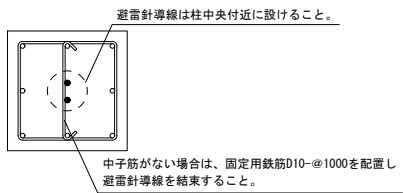
ハト小屋

- ・*印は 意匠図による。
- ・多雪地域は適用外とする。
- ・アゴ部およびパラベット配筋は別図による。

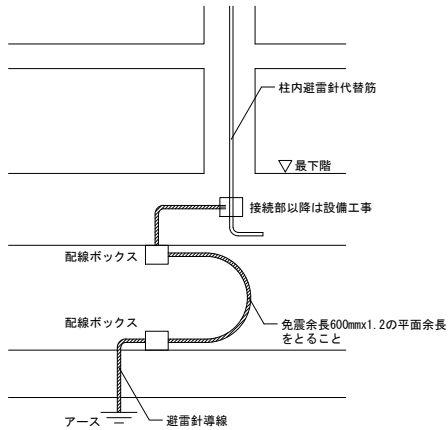


避雷針導線の補強筋

- 柱主筋は避雷針導線として用いてはならない。
- 柱内に避雷針導線を埋込む場合は以下の方法とし、監督職員の承認を得ること。
 - ・避雷針導線代替筋 (2-D19) を設ける。
- 避雷針導線代替筋は柱中央付近に設けるものとし、継手は圧接又はフレア溶接を基本とし、機械式継手を採用する場合は、電氣的に連続するものを採用すること。

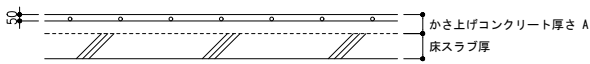


- 避雷針導線の最下階配線ボックスとの接続要領は下図による。
 - 梁への埋込みは増打部に行なうこと。



- 避雷針導線を外部から柱に埋込む際には、可換部にて断面欠損が生じないように確認する。

嵩上げコンクリート配筋要領



かさ上コンクリート厚さ A	補強筋
A<80	補強筋なし
80≦A<200	D10 @200 シングル
200≦A<300	D13 @200 シングル
300≦A<400	D10 @200 ダブル
400≦A	D10・D13 @200 ダブル



株式会社 佐藤総合計画

工事名称 南相馬市新庁舎建設建築主体工事

図面名称 雑配筋・鉄骨詳細図 (3)

設計番号 04632-010

作成日 -

縮尺 A1 S=1/ 40 A3 S=1/ 80

一級建築士事務所 登録番号 宮城県知事登録 第22210181号

建設コンサルタント 登録番号 建01第843号

総括 一級建築士第315658号 飯柴耕一

一級建築士第323340号 高橋英雄 一級建築士第374585号 古川侑基

構造関係図等に適合することを確認した 一級建築士 第306020号 構造設計一級建築士 第5334号 増垣 進司

設備関係図等に適合することを確認した 一級建築士 第359849号 設備設計一級建築士 第4808号 渡邊 森

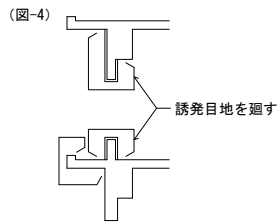
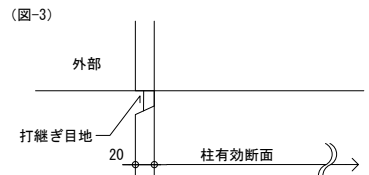
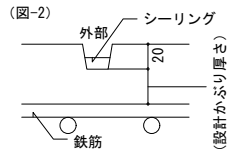
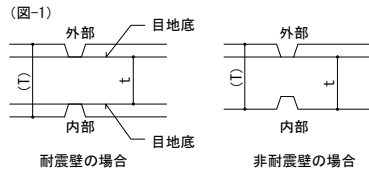
棟別 S - 066

通し番号 -

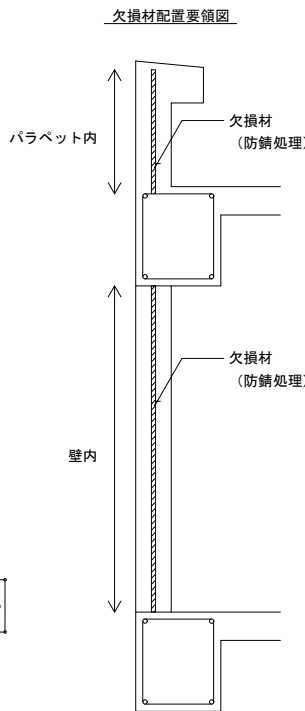
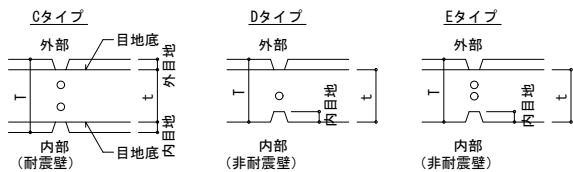
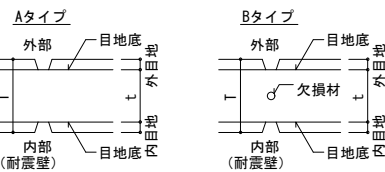
ひび割れ誘発目地要領

- ・ ひび割れ欠損材は、防錆処理（エポキシ塗装もしくはメッキ）を施すこと。
- ・ 鉄筋の腐食の深さは、屋外側と室内側の目地深さと欠損材の有効径の合計値で算定し、総壁厚Tの20%以上とする。
- ・ 鉄筋のかぶり厚の算定起点は、目地底とする。（図-2）
- ・ 横目地（打継ぎ目地）の深さと屋外側の縦目地（誘発目地）深さは、同一とし、20mmを原則とする。
- ・ 横目地（打継ぎ目地）により、柱に断面欠損を生じさせてはならない。（図-3）
- ・ 図面上の寸法は設計かぶり厚さを示している。
設計かぶり厚さは、コンクリート打設後の出来上り状態で最小かぶり厚を確保する為に施工精度誤差を考慮して最小かぶり厚さに10mm加えた値とする。
- ・ 手摺、バラベツト、窓台、片持ちスラブなどの天端及び窓枠部の隅角部に誘発目地を廻すこと。（図-4）
- ・ 手摺壁、垂れ壁の誘発目地は、3mピッチ以内とする。但し、Pcαとした場合は除く。
- ・ バラベツトの誘発目地は1.5mピッチ以内とする。
- ・ 耐震壁への欠損材はモルタル等を充填とする。
- ・ CCR工法同等品とする。

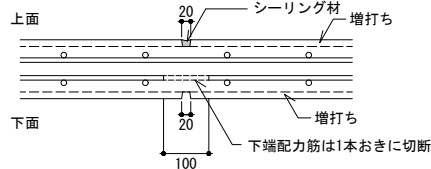
(1) 外壁・パラペット



■目地タイプ



(2) 屋外片持ちスラブ



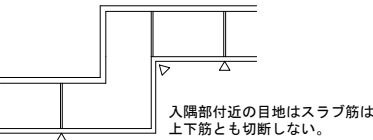
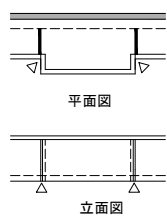
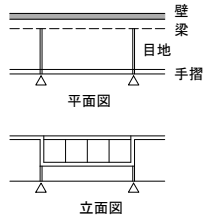
目地部での鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さを確保する。

誘発目地の位置

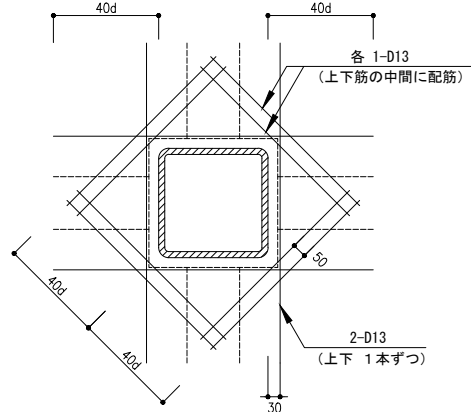
下記に示す断面急変部には誘発目地を設ける。

- ・コンクリート手摺、腰壁でなくなる部分 ・床スラブ出寸法が変化する境界部分 ・雁行した入隅部

▽印は 目地位置を示す



鉄骨柱周りのひび割れ防止筋配筋要領図



CCB工法（鉄筋挿入型ひび割れ制御工法）仕様書

1. 工法概要

CCB(Grack Control Bar)工法は、鉄筋コンクリート壁の収縮ひび割れ発生位置を制御する工法で、確実に誘発目地へひび割れを誘導させると同時に、目地部以外の壁面ひび割れをほとんど発生させないことを可能とするものである。本工法の特徴は、ひび割れを誘発させたいところの総断面積損率（非コンクリート率）を確保する手段として、壁表面に設けた欠き込み目地と目地位置の壁内部に異形鉄筋を用いたひび割れ誘発材および壁縦筋を直線状に配置する点である。本工法は、（財）日本建築総合試験所の建築技術性能証明「GBRC 性能証明 第09-04号 改」を取得している。また、本工法は、機械的な付着を期待できる異形鉄筋をひび割れ誘発材として用い、収縮ひび割れを誘発目地内に誘導する技術として、特許第4719032号を取得している。

2. 一般事項

本工法は、本仕様書および本工法の建築技術性能証明評価概要報告書に従うものとする。本仕様書および本工法の建築技術性能証明評価概要報告書に記載されていない事項については、以下の関連基準および指針類に従うものとする。

(1) 建築基準法、建築基準法施行令および国土交通省（旧建設省を含む）告示

(2) 日本建築センター：建築物の構造関係技術基準解説書（2007年8月）

(3) 日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説（1999年11月）

(4) 日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準の改定について、2008年度日本建築学会大会構造部門（RC構造）パネルディスカッション資料（2008年9月）

(5) 日本建築学会：鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説（2001年1月）

(6) 日本建築学会：鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説（2003年11月）

(7) 日本建築学会：鉄筋コンクリート造建築物の収縮ひび割れ制御設計・施工指針（案）・同解説（2006年2月）

(8) 日本建築学会：建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事（2009年2月）

(9) 日本建築学会：建築工事標準仕様書・同解説 JASS8 防水工事（2008年2月）

3. 適用範囲

本工法は、鉄筋コンクリート造および鉄骨鉄筋コンクリート造の付帯ラーメン内に配置された、ひび割れ誘発目地を有する鉄筋コンクリート造耐震壁に適用する。

4. 事業主・設計監理者および施工者の範囲

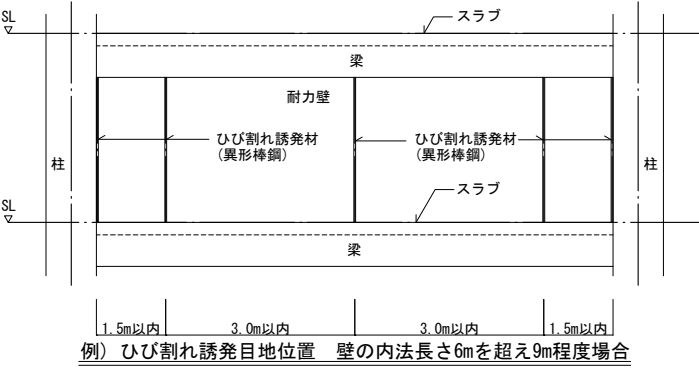
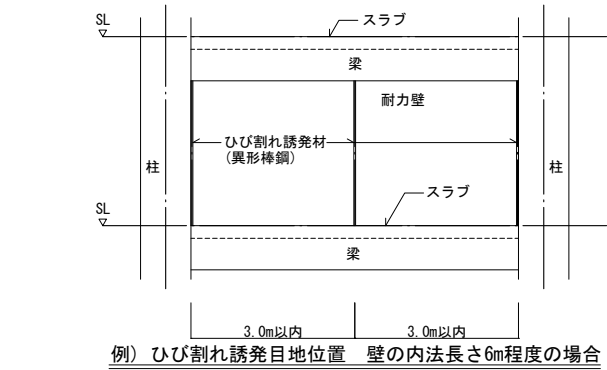
CCB工法協会では、CCB工法を適用する作業所に対して、本工法を十分理解していると協会が認定したCCB工法施工管理技術者による施工指導を義務付けており、CCB工法施工管理技術者の称号は、5年以上の実務経験を持つ技術者で、協会が実施する講習会を受講し、修了試験に合格した者に与えられる。本工法を使用する場合は、施工者はCCB工法協会員（正会員または限定会員）であること、事業主・設計監理者等は工法協会に入会（賛助会員）することで使用できる。CCB工法協会（URL：http://ccb-koho.com）

5. 使用材料

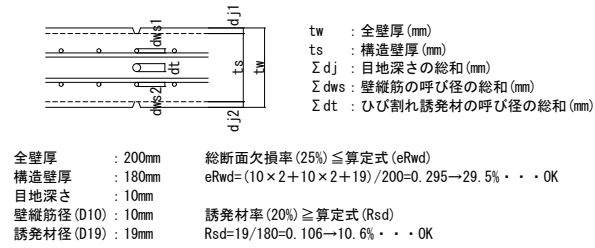
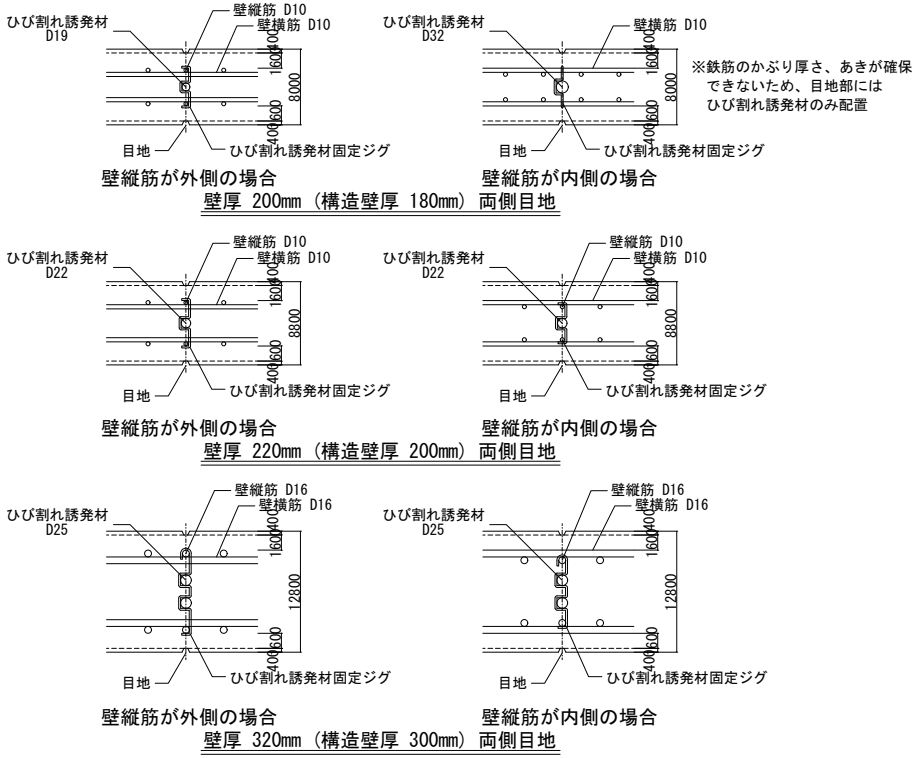
コンクリートの種類：普通コンクリート（JASS 5）
コンクリートの設計基準強度（N/mm²）： $21 \leq F_c \leq 48$
鉄筋コンクリート壁板に用いる鉄筋：SD295A、SD295B、SD345、SD390（JIS G 3112）

6. 構造規定

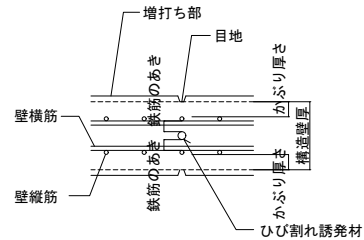
- (1) ひび割れ誘発目地は、原則として柱際と、柱面から1.5m以内、目地間隔を3m以内に配置する。
- (2) 耐震壁の全壁厚に対する総断面積損率（非コンクリート率）は原則として25%以上とする。
総断面積損率とは、一般に言われる断面欠損率とは異なり、部材厚さに対するひび割れ誘発目地の深さと、ひび割れ誘発目地と同一方向の壁縦筋の呼び径、断面中央部に配置するひび割れ誘発材（原則、縦筋より太径の異形鉄筋）の呼び径の合計との比を指す。
また、縦筋に径の異なる鉄筋を交互に使用する場合は、原則、太い径の鉄筋にて算定を行う。施工は、目地部に太い径の縦筋を配置する。
総断面積損率の算定式 $eRwd(\%) = (\sum dj + \sum dws + \sum dt) / tw \times 100$
- (3) 構造壁厚に対するひび割れ誘発材の径の合計の割合（誘発材率）は20%以下とする。
誘発材率の算定式 $Rsd(\%) = \sum dt / ts \times 100$
- (4) ひび割れ誘発材は、上下の梁および床スラブに定着しないように耐力壁の内法高さに合わせて配置する。
- (5) ひび割れ誘発材は、外目地および内目地幅の中心を結ぶ直線状に配置し、周囲の鉄筋に専用のひび割れ誘発材固定ジグ（岡部インダストリー㈱製）で固定する。
- (6) ひび割れ誘発材は、鉄筋のあきが均等になるように配置する。
- (7) ひび割れ誘発材と壁縦筋との必要な鉄筋のあきは壁縦筋の呼び名の数値の1.5倍、粗骨材最大寸法の1.25倍、25mmのうち大きい方の数値以上とする。
- (8) 鉄筋あきを算定する場合は、縦横筋及びひび割れ誘発材は表1に示す最外径を用いる。
- (9) 壁筋比は、原則として、外壁で0.4%以上、内壁で0.3%以上とする。
- (10) 壁厚は180mm以上、複筋配置を原則とする。



各壁厚さの配筋納まり参考例



非コンクリート率と誘発材率の算定方法（例）



鉄筋あきの算定方法（例）

制定：2013.04.01
更新：2021.06.14

構造壁厚	180mm
かぶり厚さ	40mm
壁縦筋径 (D10)	11mm (最外径)
誘発材径 (D19)	21mm (最外径)
鉄筋のあき	壁縦筋の呼び径の数値の1.5倍、粗骨材最大寸法の1.25倍、25mmのうち大きい方の数値以上とする。
鉄筋あきの求め方	$(180 - 40 \times 2 - 11 \times 2) / 2 = 28.5\text{mm} > 25\text{mm}$

7. 施工上の留意点

- (1) 構造躯体内部に設置するひび割れ誘発材は、コンクリート表面のひび割れ誘発目地と壁縦筋の中心を結ぶ直線状に取り付ける。
- (2) 構造躯体内部のひび割れ誘発材はコンクリートの打込みによって移動および転倒することのないように、専用のひび割れ誘発材固定ジグを使用して固定する。
ひび割れ誘発材固定ジグの配置間隔は、端部は0.5m以下、中央は1m以下を原則とする。
ひび割れ誘発材固定ジグはJIS規格品（JIS G 3532）とし、岡部㈱の製造品とする。
注文先 TEL:0774-43-2200 FAX:0774-43-2250
問い合わせ先 TEL:0774-43-2200 担当者：中嶋直幸
ひび割れ誘発材固定ジグのかぶり厚さは、仕上がりのある場合または固定ジグに防錆処理を行う、仕上げのない場合で30mm以上を確保する。
製作の都合上、固定ジグの端部フックおよびひび割れ誘発材固定部の形状は、壁厚等によっては基本形状図と異なる場合がある。
- (3) 外部に面するひび割れ誘発目地にはコンクリートの耐久性を確保するため目地底にシーリング材を充填する。
- (4) セパレータは、ひび割れ誘発材に干渉しない位置に取付ける。
- (5) コンクリートの打設は、片押しにならないように注意する。
- (6) コンクリート打設時の締固めは、バイブレータでの内部振動と型枠外面のたたきを併用する。この際、ひび割れ誘発材および目地棒に直接バイブレータが接触しないように留意するとともに、目地棒周辺のたたきを入念に行う。

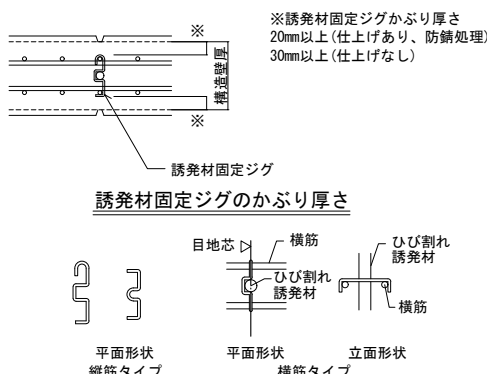
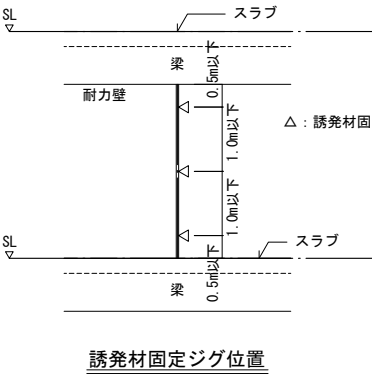


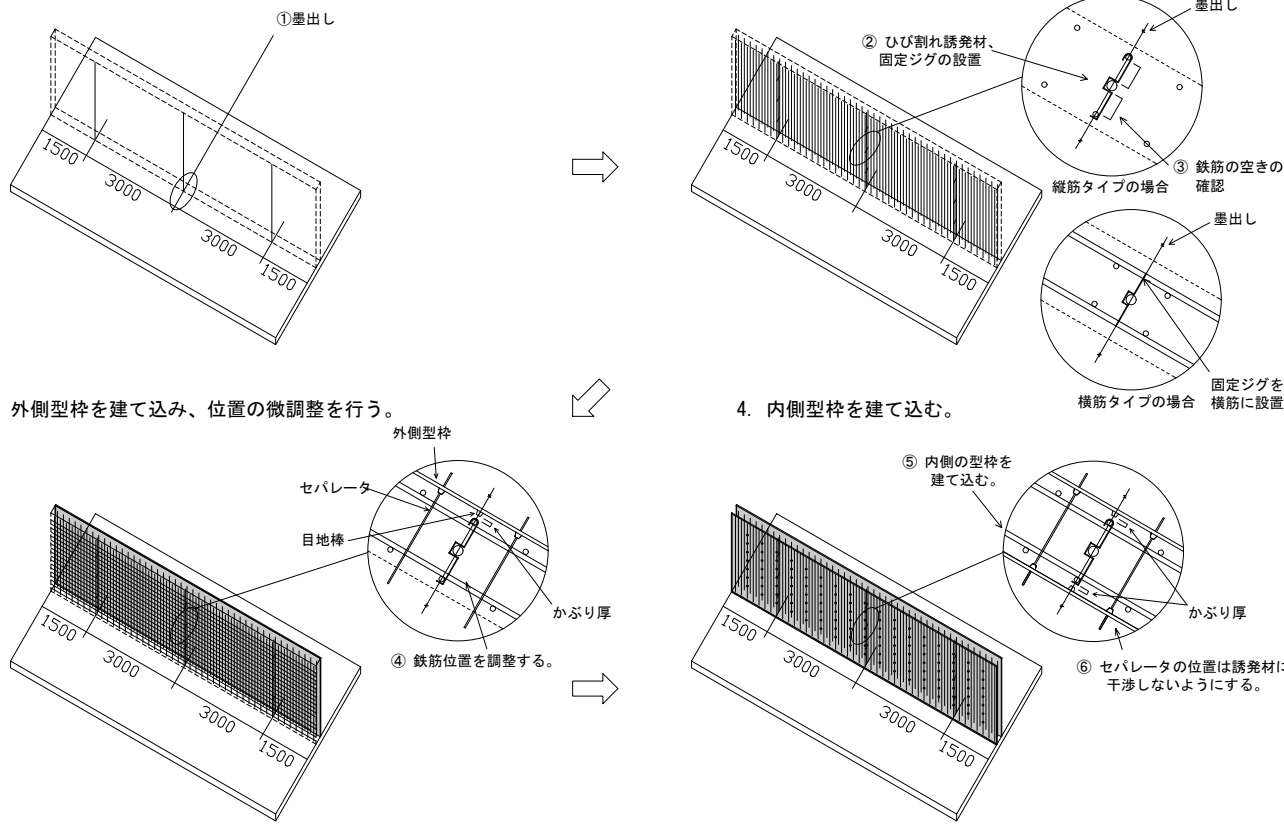
表1. 異形鉄筋の最外径 (mm)

呼び名	最外径	呼び名	最外径
D10	11	D29	33
D13	14	D32	36
D16	18	D35	40
D19	21	D38	43
D22	25	D41	46
D25	28	D51	58

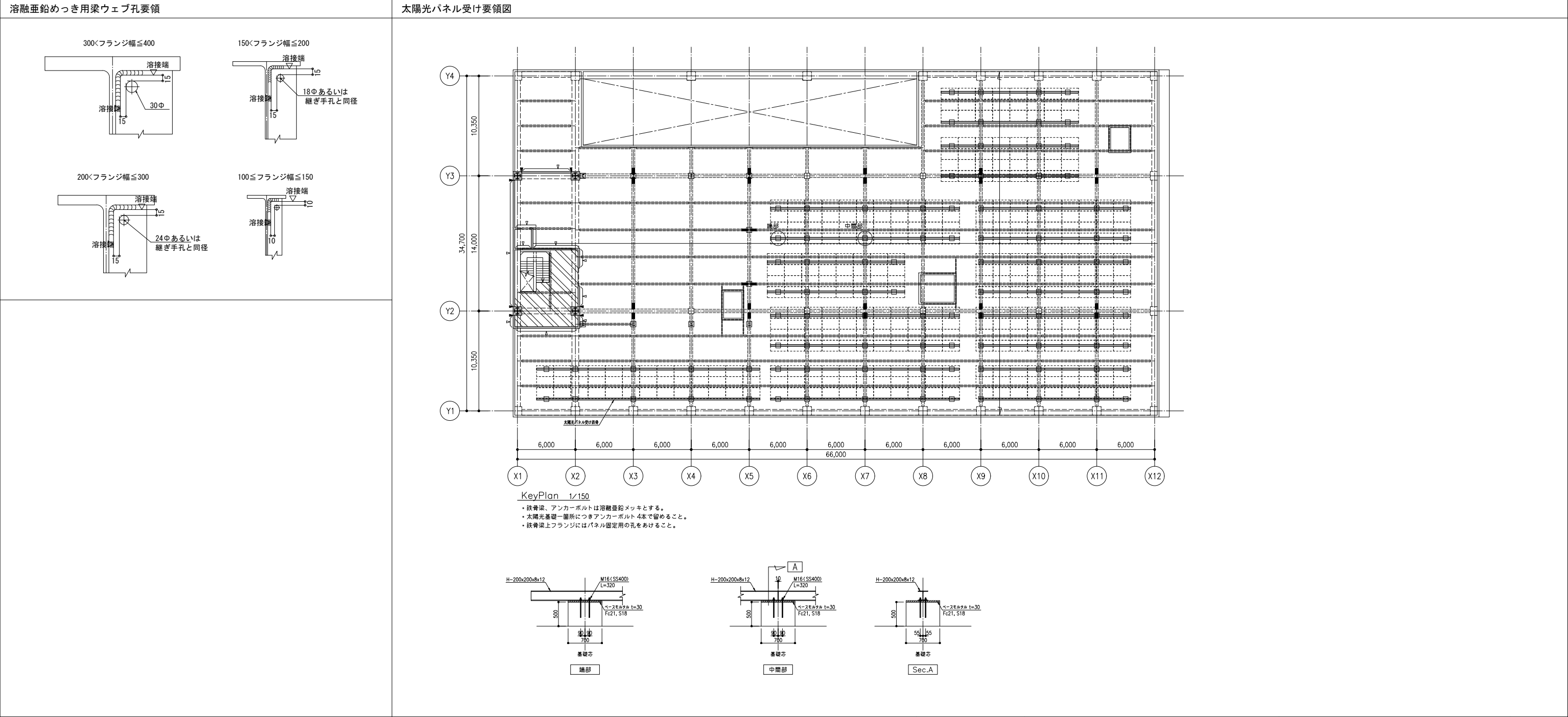
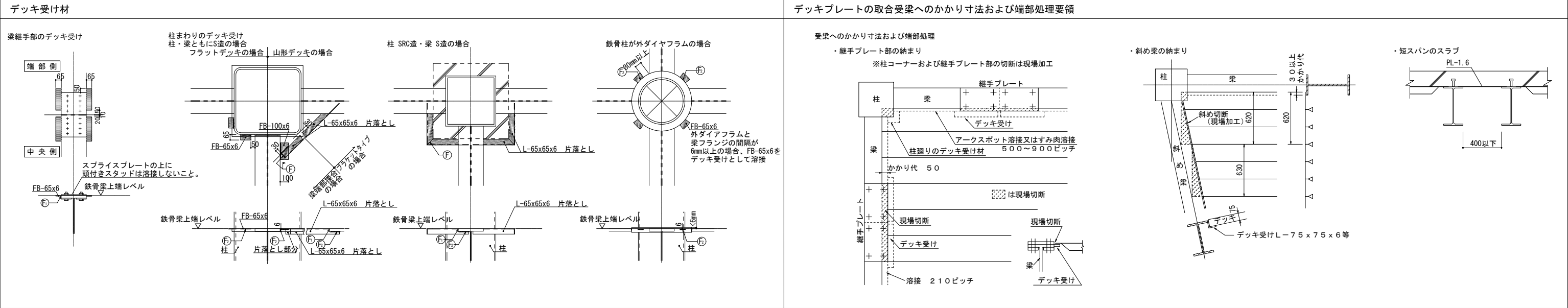
誘発材固定ジグ（縦筋タイプ）の形状について
① 壁縦筋がD13以下の場合、固定ジグの長さが100mm以下の場合、壁縦筋と誘発材の径が同径の場合、固定ジグの両端は90°フックとなる。
② 誘発材がD13以下の場合、固定ジグの中央はR型となる。

8. 施工手順

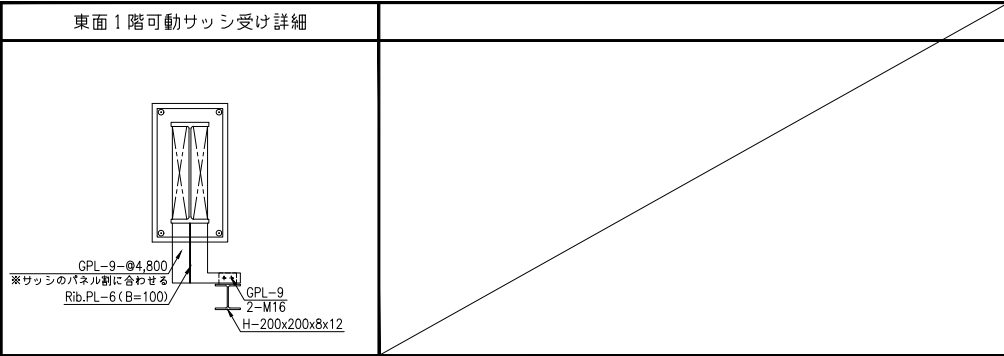
1. 誘発目地位置に墨出しを行う。
2. 壁筋、ひび割れ誘発材を設置する。
※壁縦筋の割り付けは、目地部から行うこと。
3. 外側型枠を建て込み、位置の微調整を行う。
4. 内側型枠を建て込む。
5. 内側の型枠を建て込む。
6. セパレータの位置は誘発材に干渉しないようにする。



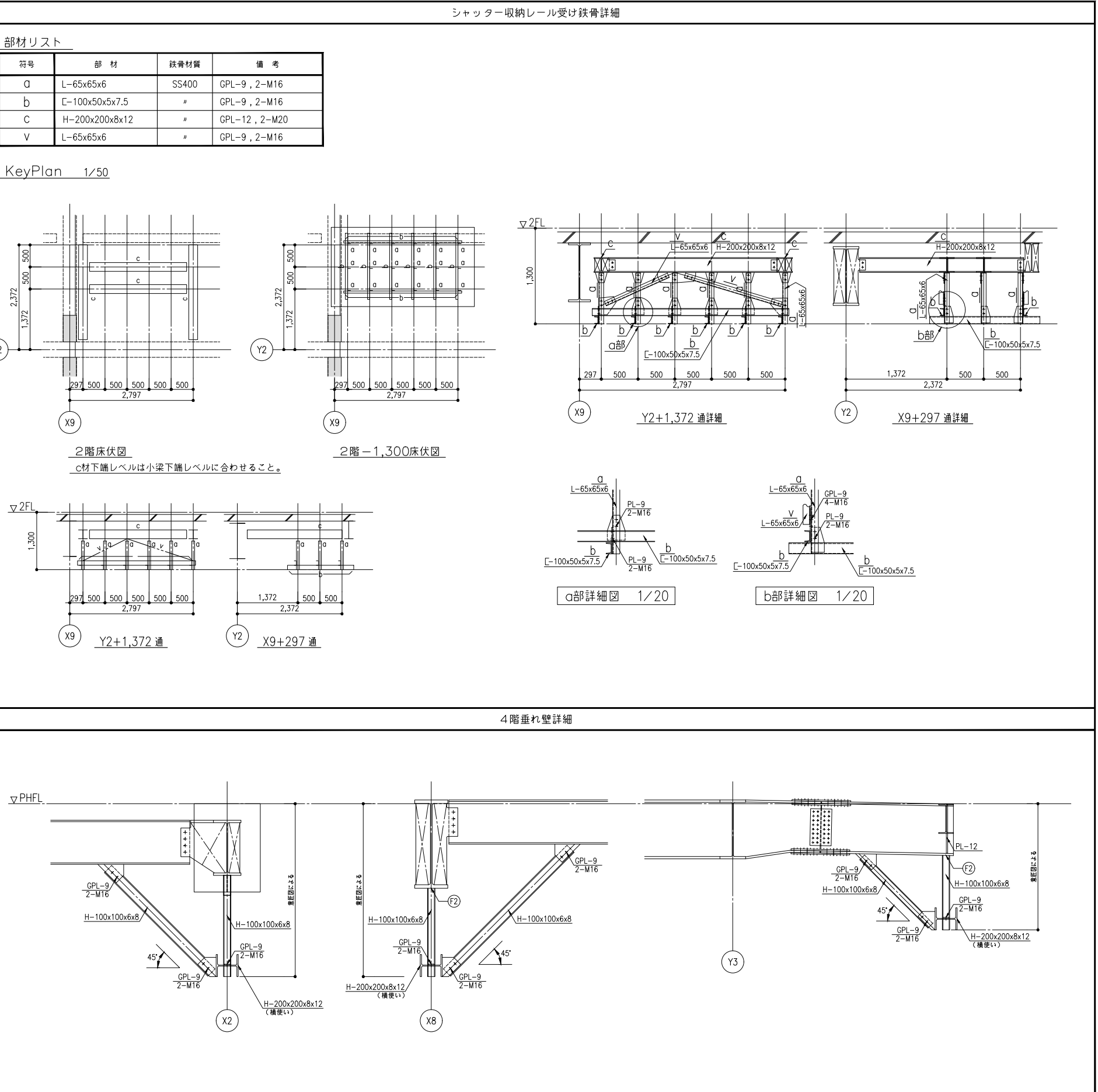
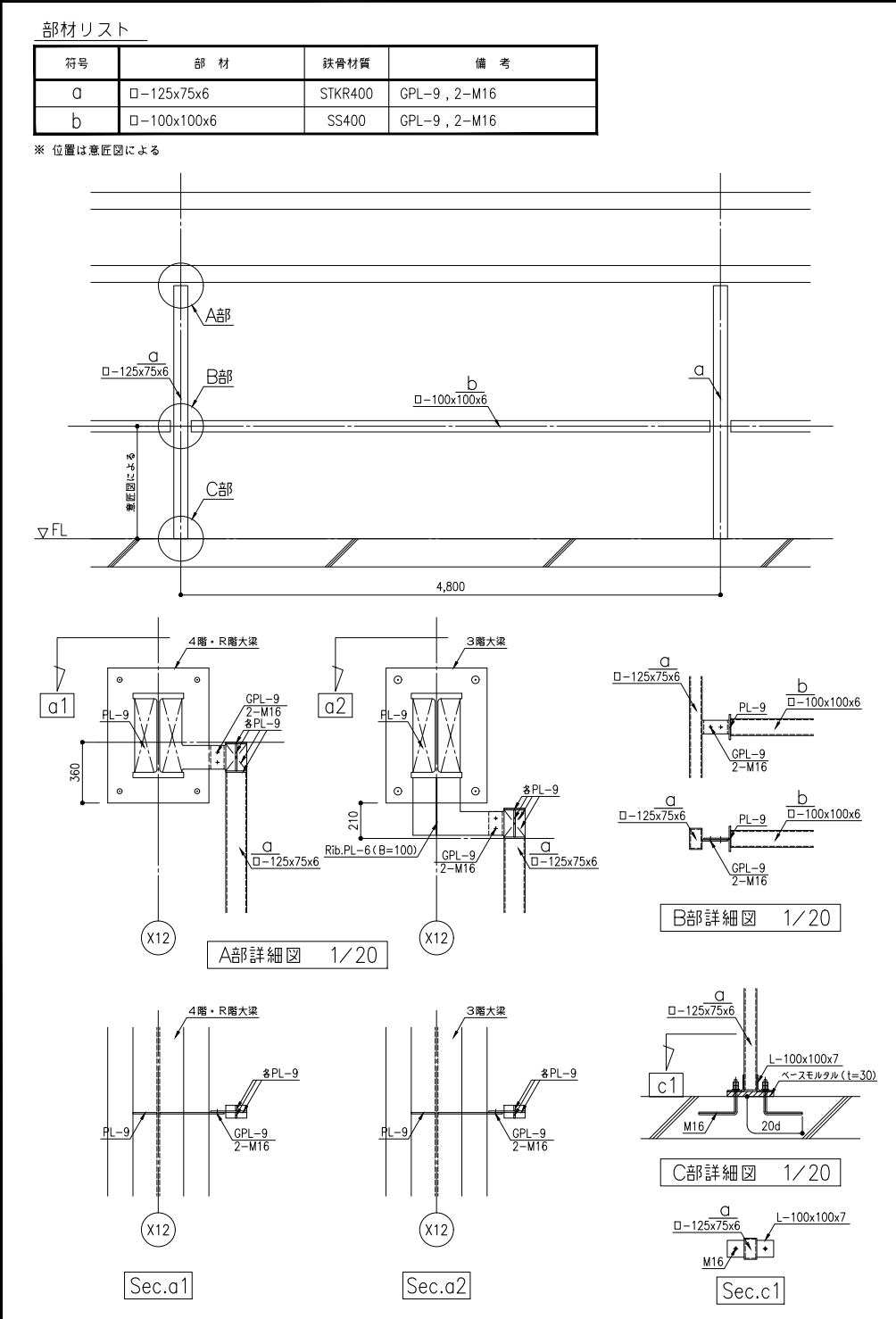
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--



AXS 株式会社 佐藤総合計画				工事名称 南相馬市新庁舎建設建築主体工事		一級建築士事務所 登録番号 宮城県知事登録 第22210181号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号		種別 S - 069
図面名称 雑配筋・鉄骨詳細図（6）				図面番 雑配筋・鉄骨詳細図（6）	設計者 一級建築士第315658号 飯柴耕一	監理者 一級建築士第323340号 高橋英雄 一級建築士第374585号 古川侑慧	通し番号	-
設計番号 04632-010				作成日 -	編尺 A1 S=1/ 30 A3 S=1/ 60	構造関係図等に適合することを確認した 一級建築士 第306020号 構造設計一級建築士 第5334号 増垣 進司	設備関係図等に適合することを確認した 一級建築士 第359849号 設備設計一級建築士 第4808号 渡邊 森	



東面 2 ～ R 階 E C P 受け詳細

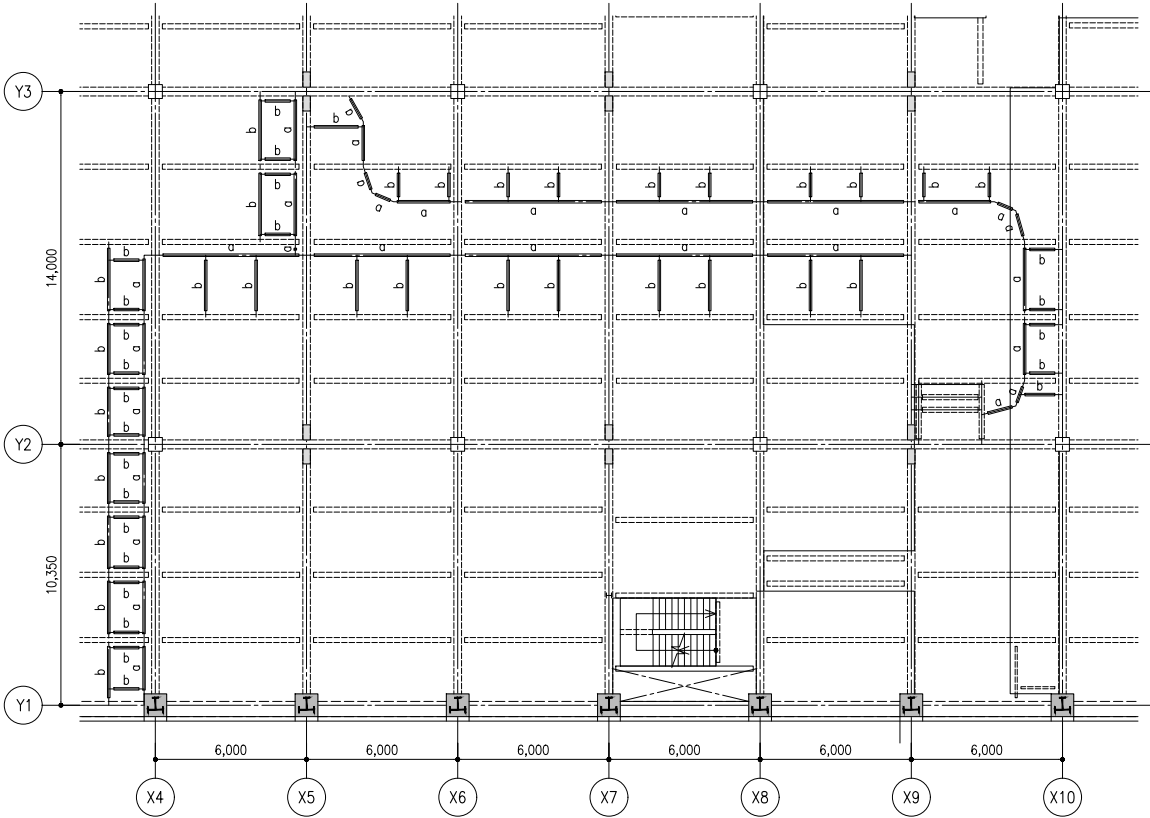


1 階横引きシャッター下地詳細

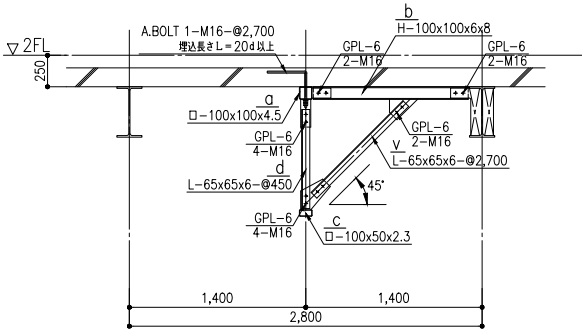
部材リスト

符号	部 材	鉄骨材質	備 考
a	□-100x100x4.5	SS400	GPL-6, 2-M16
b	H-100x100x6x8	〃	GPL-6, 2-M16
c	□-100x50x2.3	〃	GPL-6, 2-M16
d	L-65x65x6-◎450	〃	GPL-6, 2-M16
v	L-65x65x6-◎2,700	〃	GPL-6, 2-M16

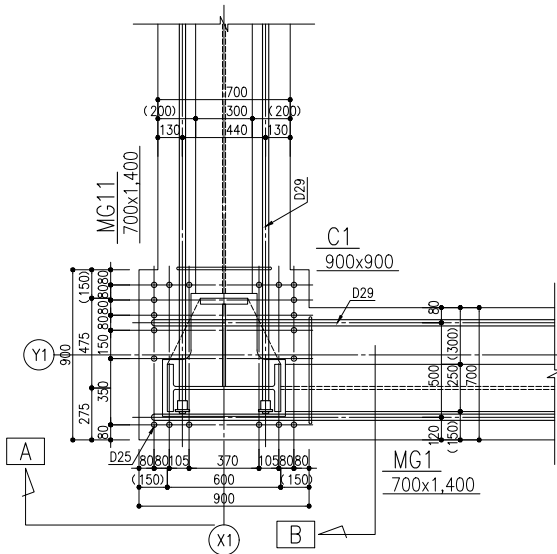
KeyPlan 1/150



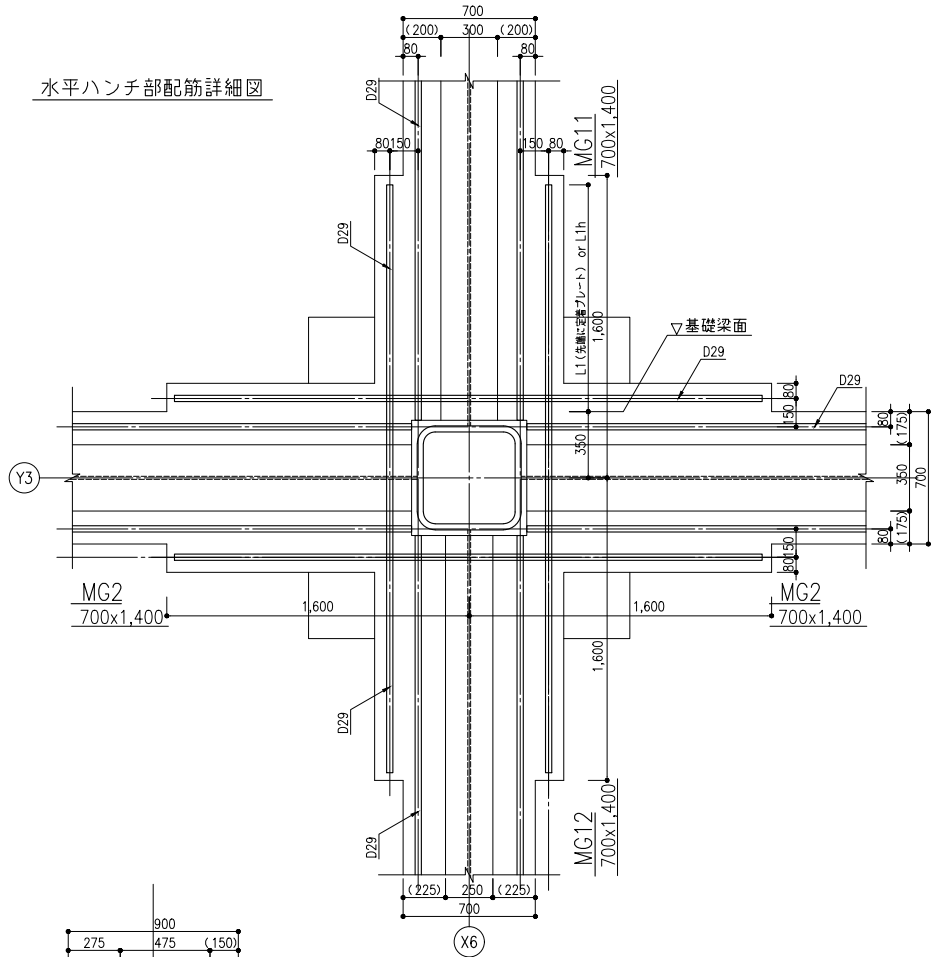
※コンクリート強度発現後リブプレートは切断すること。



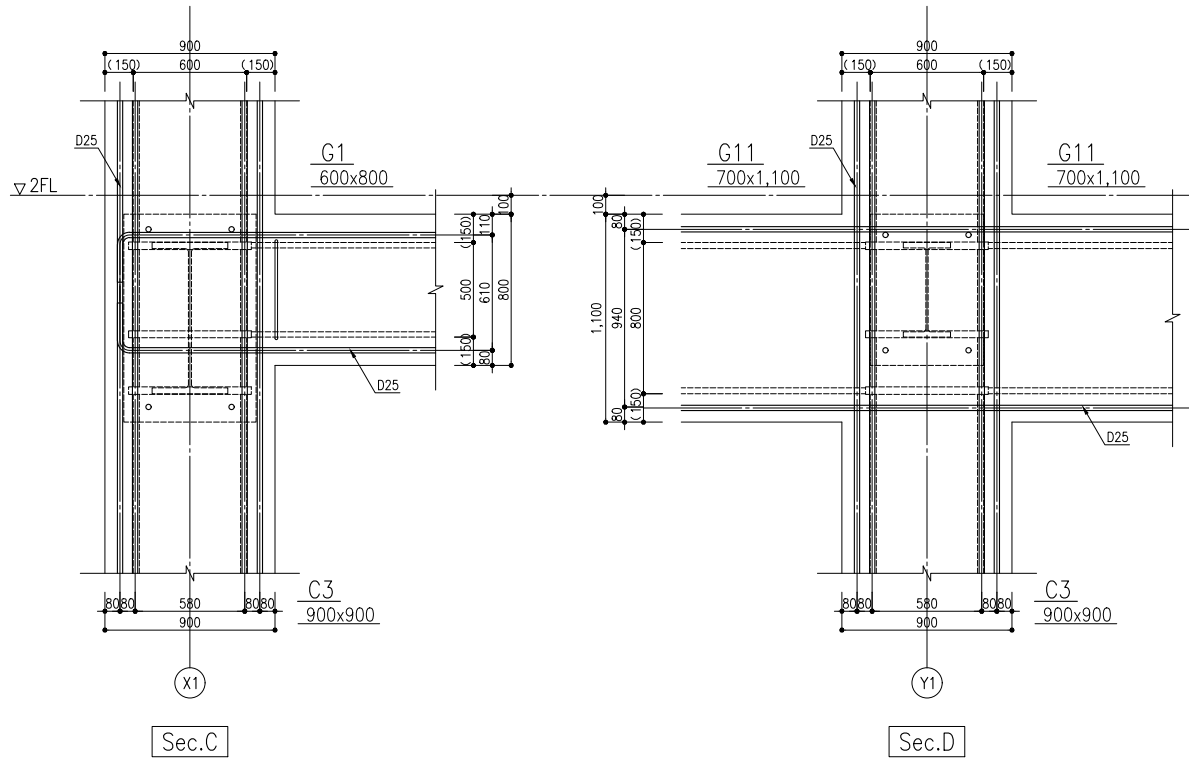
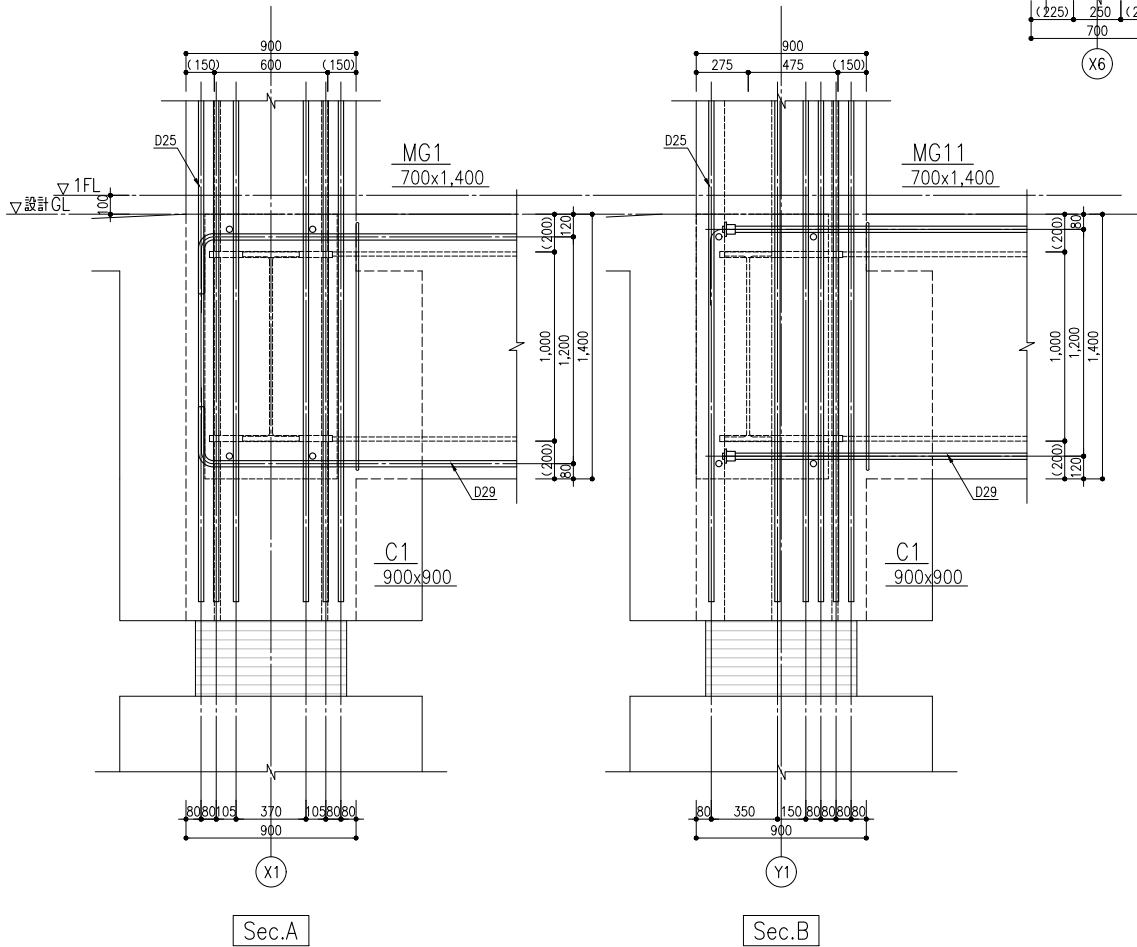
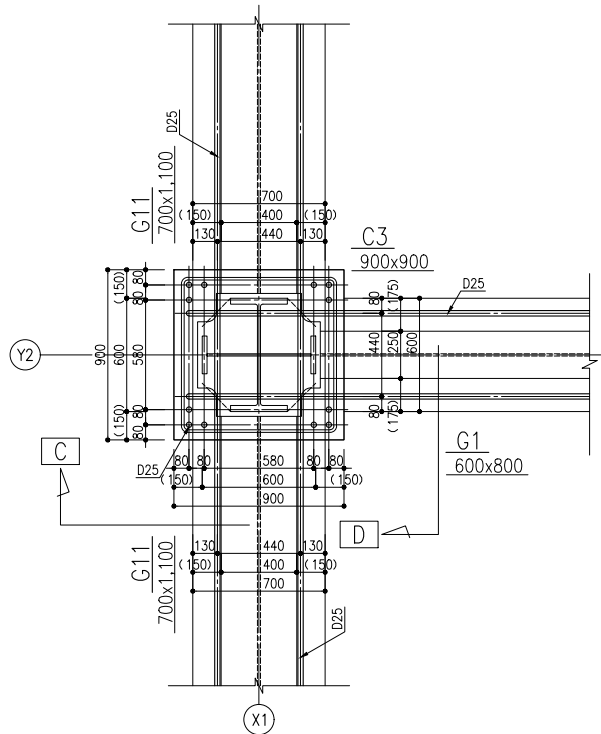
1 階



水平ハンチ部配筋詳細図



2 階



				AXS 株式会社 佐藤総合計画		工事名称 南相馬市新庁舎建設建築主体工事		一級建築士事務所 登録番号 宮城県知事登録 第22210181号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号		種別 S - 072
				図面名 SRC仕口詳細図		設計番号 04632-010		概算 A1 S=1/ 20 A3 S=1/ 40		通し番号 -
				作成日 -		概算 A1 S=1/ 20 A3 S=1/ 40		概算 A1 S=1/ 20 A3 S=1/ 40		通し番号 -
				構造関係図に適合することを確認した 一級建築士 第306020号 構造設計一級建築士 第5334号 増垣 進司		関係 一級建築士第315658号 飯柴耕一 一級建築士第323340号 高橋英雄 一級建築士第374585号 古川侑慧 設備設計一級建築士 第4808号 渡邊 森		関係 一級建築士第323340号 高橋英雄 一級建築士第374585号 古川侑慧 設備設計一級建築士 第4808号 渡邊 森		通し番号 -

